

令和6年度

教育に関する事務の管理及び執行状況の

点検・評価報告書

笠岡市教育委員会

目 次

I	教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価について	1
II	笠岡市教育行政における事務の管理及び執行状況の点検・評価項目	3
1	教育委員会の運営状況	5
2	教育委員会が管理・執行する事務	18
3	教育行政基本方針・基本施策	21
	《「学び」「育ち」をつなぎ、自立して共に生きる子どもを育てる学校教育の推進》	21
	基本施策1 (重点) 自立した子どもの育成	21
	(1) 自ら学びに向かい、課題を解決する力を育成するための教育活動の充実	21
	(2) 確かな学力を身に付けるための教育内容・方法の充実	22
	基本施策2 (重点) 共生の心の育成	26
	(1) 豊かな人間性を育む教育の充実	26
	(2) 健康教育の充実と食育の推進	30
	(3) 学校体育、スポーツ活動の充実	32
	基本施策3 郷土愛の育成	33
	基本施策4 (重点) 小中一貫教育及び学校規模適正化の実施	34
	基本施策5 学校施設等の整備	36
	《市民一人ひとりの豊かな学びにより地域力を高める生涯学習の推進》	38
	基本施策6 (重点) 市民誰もが学びたいときに学ぶことができる機会の提供	38
	基本施策7 生涯学習によるまちづくり	41
	基本施策8 (重点) 家庭・地域・学校と一体となった地域ぐるみの教育支援	42
	基本施策9 社会教育に取り組む市民や団体との協働と支援	44
	《幅広い世代が楽しめる文化・芸術の振興と担い手の育成》	46
	基本施策10 (重点) 文化財の保護・活用	46
	基本施策11 竹喬美術館の活性化と館蔵品の充実	48
	基本施策12 芸術文化活動の振興・交流と担い手の育成	50
	基本施策13 カブトガニの保護とカブトガニ博物館の運営	54
	《誰でも気軽に親しめる生涯スポーツの振興》	57
	基本施策14 生涯スポーツの推進	57
	基本施策15 (重点) 競技スポーツの推進	58
	基本施策16 スポーツ施設の整備・充実と活用	60
III	評価委員の総合評価	61
IV	資料	67

I 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価について

1 目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育委員会が点検・評価し、その結果を議会に報告するとともに市民に公表することが義務づけられています。

この点検・評価は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

2 点検・評価の対象及び方法等

(1) 対象

- ① 教育委員会が管理・執行する事務
- ② 第7次笠岡市総合計画（後期基本計画 令和4～令和7年度）に掲げた「学校教育の充実」、「生涯学習の推進」、「スポーツの振興」及び「歴史の継承・文化の振興・カブトガニの保護と活用」の取組のうち主なもの
- ③ 「笠岡市教育振興基本計画」に掲げた主要施策の事務・事業のうち主なもの

(2) 方法

令和6年度における達成状況の把握を参考としながら、その取組状況について点検・評価を実施します。

- ① 基本施策
管理執行する事務及び教育振興基本計画に掲げた主要施策を記載
- ② 目標
点検・評価項目が目指す目標、その必要性や意図・ねらいなどを記載
- ③ 施策を推進する主な事業 重点事業・事務事業
基本施策における主要事業等の目的、令和6年度の主な実績及び今後の方向性、決算額を記載
- ④ 評価
目標に対する達成度や効果等について、評価を記載
＜評価指標＞
 - A：予定どおり目標が達成された。
 - B：概ね達成された。
 - C：やや目標に達成できなかった。
 - D：達成できなかった。努力を要する。
- ⑤ 課題と方向性
今後の課題・改善点及び方向性等について記載

(3) 学識経験者による知見の活用

点検・評価に当たっては、地教行法第26条第2項の規定により教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされたため、笠岡市教育委員会評価委員から意見を聴取しました。

< 笠岡市教育委員会評価委員 >

今 井 航	福山大学大学教育センター教授
三 谷 信 恵	元笠岡市教育委員
藤 井 厚 男	元笠岡市立小学校長・行政経験者

(4) 報 告

当年度分の報告を議会（総務文教委員会協議会）で行います。

(5) 公 表

ホームページ及び教育委員会事務局等での閲覧ができます。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 笠岡市教育行政における事務の管理及び執行状況の点検・評価項目

1 教育委員会の運営状況

- (1) 教育委員会の会議の運営
教育委員会定例会及び臨時会の開催
- (2) 教育委員会の活動
総合教育会議への出席
- (3) 教育委員の研修等
研修会，その他各種行事・会議への出席
- (4) 学校及び教育施設への支援
教育委員による学校・教育施設訪問
教育委員と教職員の懇談会
教育委員による学校給食訪問

2 教育委員会が管理・執行する事務

- (1) 教育行政の運営に関する基本方針
令和6年度「笠岡市教育行政実施計画」を策定
- (2) 規則等の改廃
規則，要綱，規程等の制定・改正等
- (3) 議会の議決を経るべき議案
条例等の議案を審議
- (4) 教育関係予算
教育行政に関する予算を審議
- (5) 教育委員会の所管に属する学校，その他の教育機関の設置又は廃止
設置又は廃止を審議
- (6) 職員の任免に関すること
教育委員会事務局職員の人事異動，小・中学校長等の人事異動の内申について審議
- (7) 教科用図書の採択の決定に関すること
教科用図書の採択
- (8) 法令等で定められた諮問機関の委員の委嘱
諮問機関の委員の委嘱
- (9) 市重要文化財の指定及び解除
市重要文化財の指定及び解除を審議
- (10) 教育委員会の点検評価報告書の作成
教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価を実施し，報告書の作成，議会へ報告，公表

3 教育行政施策体系

基本理念	施策項目 (総合計画)	基本方針	基本施策
学ぶ楽しさ 輝く個性 生き抜く力	学校教育の 充実	「学び」「育ち」をつ なぎ自立して共に生 きる子どもを育てる 学校教育の推進	1 自立した子どもの育成
			2 共生の心の育成
			3 郷土愛の育成
			4 小中一貫教育及び学校規模適正化の実施
			5 学校施設等の整備
	生涯学習の 推進	市民一人ひとりの豊 かな学びにより地域 力を高める生涯学習 の推進	6 市民誰もが学びたいときに学ぶことができる機会の提 供
			7 生涯学習によるまちづくり
			8 家庭・地域・学校と一体となった地域ぐるみの教育支 援
	歴史の継 承・文化の 振興・カブ トガニの保 護と活用	幅広い世代が楽しめ る文化・芸術の振興 と担い手の育成	9 社会教育に取り組む市民や団体との協働と支援
			10 文化財の保護・活用
			11 竹喬美術館の活性化と館蔵品の充実
			12 芸術文化活動の振興・交流と担い手の育成
	スポーツの 振興	誰でも気軽に親しめ る生涯スポーツの振 興	13 カブトガニの保護とカブトガニ博物館の運営
			14 生涯スポーツの推進
			15 競技スポーツの推進
			16 スポーツ施設の整備・充実と活用

1 教育委員会の運営状況

教育長

(R7. 3. 31 現在)

職 名	氏 名	就任年月日	任 期
教 育 長	大 重 義 法	R 6. 6. 7	R 6. 6. 7～R 9. 3. 31

教育委員

(R7. 3. 31 現在)

職 名	氏 名	就任年月日	任 期
教育長職務代理者 (委 員)	藤 谷 幸 弘	R 5. 12. 11 (H28. 12. 17)	R 6. 12. 17～R10. 12. 16
委 員	東 山 琴 子	R 2. 10. 1	R 6. 10. 1～R10. 9. 30
委 員	西 崎 倫 子	R 5. 12. 11	R 5. 12. 11～R 9. 12. 10
委 員	杉 本 和 歳	R 6. 4. 1	R 6. 4. 1～R 7. 10. 3

(1) 教育委員会の会議の運営

教育委員会定例会 12回 (前年12回)

教育委員会臨時会 2回 (前年3回)

月 日	定例会又は臨時会	議 案	報 告	協議報告・その他
4月19日	定例会	1		12
5月17日	定例会	6	2	12
6月28日	定例会	3	2	9
7月19日	定例会		3	8
7月22日	臨時会			3
8月16日	定例会	2		9
9月27日	定例会	1	1	20
10月18日	定例会			6
11月15日	定例会			14
12月20日	定例会	1		13
1月17日	定例会	2	1	10
2月21日	定例会	1		9
3月10日	臨時会	2		1
3月21日	定例会	9	1	10
計	14回	28	10	136

会議については、定例会を毎月1回、年12回開催、臨時会は、必要に応じて2回開催し、計14回開催した。

会議の開催に際しては、議案資料の内容を事前に確認し、会の円滑な進行に努めた。
 会議の公開等、開かれた委員会として保護者や地域住民に情報発信し、地域に求められる活動を進めている。なお、定例会での協議のほかに教育長を含む教育委員全員で、今日的・緊急的課題について、非公式協議や意見交換を随時行っている。

① 教育委員会議案・報告案件

月 日	議 案 ・ 報 告 案 件
4月19日	① 笠岡市スポーツ推進委員の委嘱について
5月17日	① 学校運営協議会委員の委嘱又は任命について ② 笠岡市文化財保護委員の委嘱について ③ 笠岡市社会教育委員の委嘱について ④ 公民館運営審議会委員の委嘱について ⑤ 笠岡市学校給食センター運営委員会委員の委嘱及び任命について ⑥ 笠岡市教育委員会教育長の辞職同意について ⑦ 教育長の専決処分した感謝状の贈呈について ⑧ 笠岡市立カブトガニ博物館運営委員会委員の委嘱について
6月28日	① 笠岡市幼稚園副食費助成金交付要綱の一部を改正する要綱について ② 公民館運営審議会委員の委嘱について ③ 笠岡市図書館協議会委員の委嘱について ④ 笠岡市立竹喬美術館協議会委員の委嘱について ⑤ 笠岡市学校給食センター運営委員の委嘱について
7月19日	① 教育長の専決処分した感謝状の贈呈について ② 笠岡市地域学校協働活動推進員の委嘱について ③ 笠岡市立竹喬美術館協議会委員の委嘱について
8月16日	① 令和7年度使用教科用図書（中学校）の採択について ② 公民館運営審議会委員の委嘱について
9月27日	① 公民館運営審議会委員の委嘱について ② 教育長の専決処分した感謝状の贈呈について
12月20日	① 令和6年度末校長・教員等人事異動内申方針（案）について
1月17日	① 笠岡市社会教育委員の委嘱について ② 公民館運営審議会委員の委嘱について ③ 教育長の専決処分した感謝状の贈呈について
2月21日	① 笠岡市立学校寄宿舎設置条例施行規則を廃止する規則について
3月10日	① 小・中学校長等の人事異動の内申について ② 感謝状の贈呈について

3月21日	<ul style="list-style-type: none"> ① 笠岡市立幼稚園一時預かり保育事業実施要綱の一部を改正する要綱について ② 笠岡市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について ③ 笠岡市教育委員会事務局事務決裁規則の一部を改正する規則について ④ 笠岡市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則について ⑤ 笠岡市中学生学力向上に向けた検定チャレンジ受検料補助金交付要綱を廃止する要綱について ⑥ 笠岡市立図書館規則の一部を改正する規則について ⑦ 笠岡市立視聴覚ライブラリー条例施行規則の一部を改正する規則について ⑧ 公民館長の任命及び公民館運営審議会委員の委嘱について ⑨ 教育長の専決処分した感謝状の贈呈について ⑩ 教育長の専決処分した感謝状の贈呈について
-------	--

② 教育委員会協議報告・その他事項

月 日	協 議 報 告 事 項
4月19日	<ul style="list-style-type: none"> ① 金浦みらい学園の施設整備について ② 令和6年度校長・教頭・養護・事務一覧について ③ 令和6年度幼小中在籍数について ④ 育児・介護のための時差出勤の試行に関する要綱の一部改正について ⑤ 離島留学応援事業について ⑥ GIGA スクールにおける学びの充実事業 ⑦ 第41回笠岡子どもフェスティバルについて ⑧ 笠岡市立図書館 新かぶとがに号（移動図書館車）の完成について ⑨ 笠岡市立図書館 GWスペシャル映画会等について ⑩ 笠岡市立竹喬美術館 ゴールデンウィーク行事「竹喬さんとあそぼう」について ⑪ 笠岡市立カブトガニ博物館 こどもの日限定イベント「化石にさわってみよう！」について ⑫ 令和6年度教育行政実施計画（案）について
5月17日	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校規模適正化計画及び施設一体型小中一貫教育校の整備計画について ② 第20回笠岡市木山捷平文学選奨の作品募集について ③ 笠岡市立図書館の特別整理期間（蔵書点検）による休館について

	<ul style="list-style-type: none"> ④ 「本のリサイクル会」の開催について ⑤ 子ども読書活動推進計画策定のためのアンケート結果（速報）について ⑥ 国指定重要文化財 小野竹喬筆「波切村」公開セレモニー(仮称)について ⑦ 令和5年度の残食率について ⑧ 笠岡信用組合からの特別展「山形美術館 服部コレクション展(仮)」の展覧会への協賛金の申し出について ⑨ 移動図書館車かぶとがに号新車両一般公開について（報告） ⑩ 令和6年度教育行政実施計画（案）について ⑪ 令和6年度市町村教育委員会研究協議会について ⑫ 令和7年度中学校の教科書採択について
6月28日	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和6年度一般会計6月補正予算（教育関係）について ② 令和6年6月笠岡市議会定例会質問・回答について ③ 学校規模適正化について ④ 国指定史跡「津雲貝塚」の追加指定について ⑤ 笠岡市立図書館の行事等について ⑥ 笠岡市立カブトガニ博物館の行事等について ⑦ 笠岡市立竹喬美術館特別展「芸術の都(パリ)に集った巨匠たち—20世紀フランス絵画 服部コレクション—」の開催について ⑧ 真鍋中学校の土砂災害について ⑨ 令和6年度笠岡市教育便覧（案）について
7月19日	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校規模適正化計画の見直しの必要性について ② 「笠岡へもっと愛着を持ち隊」の実施について ③ 笠岡市立図書館夏休み期間中のイベントについて ④ 笠岡市立カブトガニ博物館夏休み期間中のイベントについて ⑤ 笠岡市立竹喬美術館の夏休み期間中のイベントについて ⑥ スクールボートの事故報告について ⑦ 令和6年度の笠岡市教育便覧について ⑧ 日本プロ野球独立リーグの四国アイランドリーグの公式戦について
7月22日	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和7年度使用教科用図書（中学校）の採択について ② 今後の教科書採択の採択地区について ③ 次回定例会の予定について
8月16日	<ul style="list-style-type: none"> ① 全国学力・学習状況調査の結果について ② 学校規模適正化計画地元説明会（金浦中学校区）及び見直しに向けた検討について

	<ul style="list-style-type: none"> ③ 令和6年度笠岡市成人式について ④ 移動図書館車「かぶとがに号」旧車両の売却について ⑤ 「令和6年度図書館要覧」について ⑥ 笠岡市立図書館の行事等について ⑦ 笠岡市立竹喬美術館の行事について ⑧ 教育施設の訪問について ⑨ 「笠岡に愛着を持ち隊」について
9月27日	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和6年9月笠岡市議会定例会質問・回答について ② 令和6年度一般会計9月補正予算（教育関係）について ③ 学校規模適正化計画の見直しに向けた検討のための地元説明会について ④ 学力向上に向けての取組について ⑤ 笠岡市立郷土館企画展「木山捷平の詩あれこれ」の開催について ⑥ 第19回笠岡市青少年スピーチコンテストの開催について ⑦ 図書館の休館日の変更について ⑧ 笠岡市立図書館の行事について ⑨ カブトガニ祭の開催について ⑩ 笠岡市立竹喬美術館名誉館長の委嘱について ⑪ 笠岡市立竹喬美術館の行事について ⑫ 令和5年度教育に関する事務の管理及び執行の点検・評価報告書(案)について ⑬ 笠岡工業高校の継続と発展に向けた要望書について ⑭ 令和6年度学校等教育施設訪問について ⑮ 中学生の海外派遣事業について ⑯ 旧今井小学校の絵画教室について ⑰ 長舗家住宅のチラシについて ⑱ 森田思軒顕彰講演について ⑲ 学習スペースについて ⑳ 大韓民国慶尚南道固城郡との交流事業（訪問）について
10月18日	<ul style="list-style-type: none"> ① 笠岡市小・中学校「いきいきオープンスクール」の開催について ② 笠岡市教育委員会・笠岡市教育研修所指定（令和5・6年度）大島みたけ学園 小中一貫教育研究発表会について ③ 第47回笠岡市青少年健全育成推進大会について ④ 第71回笠岡市文化祭・第47回笠岡市芸能祭・第49回笠岡市菊花展について ⑤ 学校規模適正化にかかる報告について ⑥ 生涯学習課のイベントについて

11月15日	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和7年度小学校陸上記録会について ② 学校規模適正化について ③ 第20回木山捷平文学選奨作品募集結果について ④ 笠岡市中央公民館「令和6年度『まなびの発表会』～集まれ！つなぐ！学びの輪～」の開催について ⑤ 笠岡市立図書館への国際ソロプチミスト笠岡からの寄附について ⑥ こども図書館開館15周年記念「としょかんまつり」の開催結果について ⑦ 「冬のおはなし玉手箱」の開催について ⑧ 特別展「日本画家 入江西一郎のどうぶつ画」の開催について ⑨ 「竹喬祭」無料開館日について（お茶会） ⑩ 岡山シーガルズ公式戦について ⑪ 第38回カプトガニ駅伝大会について ⑫ 津雲貝塚追加指定記念講演について ⑬ かぶとがに祭りについて ⑭ 自習室の利用状況について
12月20日	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和6年12月笠岡市議会定例会質問・回答について ② 令和6年度一般会計12月補正予算（教育関係）について ③ 笠岡市小・中学校「いきいきオープンスクール」の実施状況について ④ 学校規模適正化計画地元説明会報告について ⑤ 令和6年度笠岡市成人式の開催について ⑥ こども図書館外壁改修工事について ⑦ 年末年始の休館にかかる図書館サービスの変更について ⑧ 笠岡市立図書館の行事について ⑨ 笠岡市立竹喬美術館の行事について ⑩ 令和6年度学校等教育施設訪問について ⑪ 令和7年度教育委員会開催日程案について ⑫ 茅原基治顕彰講演会について ⑬ 高梁川流域について
1月17日	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和6年度卒業式及び令和7年度始業式等の日程について ② 令和7年度幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒数の見込について ③ 笠岡市長期欠席不登校総合対策について ④ 笠岡市立小・中学校の学校規模適正化計画書改訂版（案）について ⑤ 令和6年度笠岡市成人式の開催結果について ⑥ 第36回笠岡市生涯学習フェスティバルの開催について

	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 講演会「備中兵乱記を読む」の開催について ⑧ 展示「おしえて！心にのこった1さつ」の開催について ⑨ 令和6年度特別陳列展「八百万のカブトガニ」展の開催について ⑩ 令和6年度学校給食残食率について
2月21日	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和7年度一般会計当初予算（教育関係）について ② 令和6年度卒業式祝辞について ③ 第20回笠岡市木山捷平文学選奨表彰式の開催について ④ 第36回笠岡市生涯学習フェスティバルの開催結果について ⑤ 笠岡市立図書館の休館日の変更について ⑥ 笠岡市立図書館の行事について ⑦ 笠岡市立竹喬美術館の行事について ⑧ 令和7年度の学校給食費について ⑨ 学校規模適正化計画書改訂版（案）に係るパブリックコメントの状況について
3月10日	<ul style="list-style-type: none"> ① 教職員の内示について
3月21日	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和7年3月笠岡市議会定例会質問回答について ② 令和6年度一般会計3月補正予算（教育費関係）について ③ 令和6年度小中一貫教育に関するアンケート調査の結果について ④ 笠岡市立小中学校の学校規模適正化について ⑤ 笠岡市立学校における小学校チーム担任制の試行実施について ⑥ 令和7年度教育委員会開催日程員について ⑦ 歓送迎会の案内について ⑧ 第28回べいふぁーむ笠岡マラソンについて ⑨ 来年度からの市役所の組織機構図について ⑩ 県立高校の学校再編について

（2） 教育委員会の活動

<市長との意見交換>

総合教育会議において、学校規模適正化計画及び笠岡市長期欠席不登校総合対策について、市長と教育委員との意見交換を行った。

月 日	場 所	内 容
11月20日	市 長 室	学校規模適正化計画の改訂案について
2月 4日	市 長 室	笠岡市長期欠席不登校総合対策について

<市議会への出席>

6月定例会	6日間
9月定例会	7日間
12月定例会	6日間
3月定例会	7日間
総務文教委員会・協議会	8回

(3) 教育委員の研修等

岡山県都市教育委員会教育長協議会，教育長連絡会議等へ参加し，直面している課題や今後の取組について研修した。

月 日	会議・研修会等	場 所
4月24日	おかやま教育懇談会	オンライン開催
6月27日	市町村教育委員会研究協議会	オンライン開催
8月9日	岡山県都市教育委員会教育長協議会臨時会	サン・ピーチOKAYAMA
8月24日	P T A連合会研修会	笠岡市民会館
10月23日	教育長連絡会議	ピュアリティまきび
11月12日	岡山県都市教育委員会教育長協議会第2回定例会	真庭市立北房小学校
11月13日	市町村教育委員会研究協議会	オンライン開催
11月29日	市町村教育委員会研究協議会	福岡県
1月16日	市町村教育委員会研究協議会	オンライン開催

○その他各種行事・会議への出席等

月 日	行 事	場 所
4月1日	辞令交付式	市長室
4月2日	開園式・入園式	にじいろ認定こども園
4月5日	坂本音一育英会・藤井育英会共励会	笠岡市役所
4月6日	春の交通安全市民運動	県庁通り
4月15日	岡山シーガルズ報告会	岡山プラザホテル
4月17日	子どもフェスティバル第3回実行委員会	教育委員会会議室
4月19日	カブトガニ保護監視員委嘱式	カブトガニ博物館
4月23日	笠岡市公民館協議会総会	中央公民館
4月25日	スポーツ推進委員委嘱式	笠岡総合体育館

月 日	行 事	場 所
4月26日	第1回行政協力委員長副委員長会議	笠岡市保健センター
4月29日	第41回笠岡子どもフェスティバル	笠岡総合スポーツ公園
5月9日	笠岡市文化連盟理事会	笠岡市民会館
5月11日	笠岡市PTA連合会評議員会	笠岡小学校
5月12日	虚心忌・講演会	竹喬美術館
5月18日	小学校運動会視察	市内各小学校
5月18日	笠岡市婦人協議会総会	笠岡市役所
5月21日	スポーツ少年団指導者協議会	笠岡総合体育館
5月23日	笠岡地区少年婦人防火委員会	笠岡地区消防本部
5月24日	第11回金浦中ブロック小中一貫教育校整備検討委員会	教育委員会会議室
5月25日	小学校運動会視察	市内各小学校
5月25日	「波切村」国重要文化財指定記念セレモニー	竹喬美術館
5月25日	第22回井笠川柳笠岡大会	笠岡市保健センター
5月26日	さつき・新緑展 表彰式	笠岡市民会館
5月26日	第74回全国植樹祭	ジップアリーナ岡山
5月28日	藤井育英会・坂本音一育英会 理事会	教育委員会会議室
5月29日	笠岡市総合教育相談支援センター指導員総会・研修会	中央公民館
5月29日	租税教育総会	笠岡市保健センター
5月30日	笠岡市内暴力追放推進連合会総会	笠岡警察署
6月2日	笠岡市スポーツ協会表彰式及び総会	笠岡市保健センター
6月3日	辞令交付式	中央公民館
6月5日	笠岡市文化・スポーツ振興財団理事会	笠岡市役所分庁第4
6月16日	笠岡警察署協議会	笠岡警察署
6月22日	笠岡市戦没者追悼式	笠岡市民会館
6月25日	笠岡市文化・スポーツ振興財団評議員会	教育委員会会議室
6月25日	学校給食センター運営委員会	学校給食センター
6月25日	笠岡警察署協議会 第2回定例会	笠岡警察署
6月26日	坂本音一育英会評議員会	教育委員会会議室
6月27日	笠岡市青少年問題協議会	教育委員会会議室

月 日	行 事	場 所
7月2日	カブトガニ博物館運営委員会	教育委員会会議室
7月2日	災害対策本部会議	笠岡市役所
7月3日	笠岡市交通安全協議会 正・副部会長会議	笠岡市市民活動支援センター
7月8日	笠岡市青少年健全育成連絡協議会総会	教育委員会会議室
7月10日	青少年健全育成街頭キャンペーン	J R 笠岡駅前
7月13日	第74回社会を明るくする運動推進大会	笠岡市保健センター
7月13日	竹喬美術館特別展開会式	竹喬美術館
7月16日	教科書用図書採択協議会	矢掛町役場
7月17日	笠岡地区学校警察補導連絡協議会総会	笠岡警察署
7月17日	第1回社会教育委員会	笠岡市民会館
7月20日	中学生海外派遣事業団結式	笠岡市役所
7月22日	教科書用図書審査会	教育委員会会議室
7月22日	竹喬美術館協議会	笠岡市役所分庁第4
7月23日 7月25日	笠岡施策評価会議	笠岡市役所
7月26日	教科書用図書採択協議会	井原市役所
7月26日	県議との意見交換会	笠岡市民会館
7月28日	リフレッシュ瀬戸内 海岸清掃	天然記念物カブトガニ繁殖地指定地内海岸ほか
7月29日	第1回成人式実行委員会	中央公民館
8月2日	市内県立高校3校長との意見交換会	市長室
8月3日	青少年交流訪問団歓迎の会	笠岡市保健センター
8月7日	笠岡市交通安全協議会 正・副部会長会議	笠岡市市民活動支援センター
8月14日	坂本音一育英会・藤井育英会共励会及び墓参	教育委員会会議室ほか
8月19日	日本遺産に係る協議会総会	丸亀市生涯学習センター
8月20日	笠岡市図書館協議会	笠岡市立図書館
8月20日	笠岡市要保護児童対策地域協議会代表者会	サンライフ笠岡
8月22日	行革推進本部会議	笠岡市役所分庁第4
8月23日	第2回行政協力委員長副委員長会議	笠岡市保健センター
8月24日	中学生海外派遣事業報告会	笠岡市役所
8月27日	笠岡市生涯学習推進懇話会	教育委員会会議室

月 日	行 事	場 所
8月31日	笠岡市青少年柔剣道大会	笠岡総合体育館
9月3日	笠岡市施策評価会議	笠岡市役所
9月4日	笠岡市公民館協議会	中央公民館
9月19日	笠岡警察署協議会 第3回定例会	笠岡警察署
9月21日	秋の交通安全市民運動推進大会	笠岡市民会館
9月25日	笠岡市明るい選挙推進協議会常任推進委員会	笠岡市役所分庁第4
9月26日	白梅賞表彰式	サンライフ笠岡
9月29日	笠岡市民大学教養講座	中央公民館
10月1日	青少年健全育成連絡協議会役員会	教育委員会会議室
10月10日	第73回全国へき地教育研究大会岡山大会, 第9回中国・四国地区へき地教育研究大会岡山大会, 岡山県へき地・複式教育大会	吉備中央町
10月11日	全国へき地教育研究大会	神島外小学校
10月13日	べいふあーむ駅伝大会	笠岡陸上競技場
10月15日	県教育長と市町村教育長との意見交換会	おかやま西川原プラザ
10月22日	学童陸上運動記録会	笠岡陸上競技場
10月25日	第29回子ども・子育て推進会議	サンライフ笠岡
10月26日	こども図書館開館15周年記念「としょかんまつり」	笠岡市立図書館
10月27日	カブトガニ祭	カブトガニ博物館
10月28日 ～11月7日	オープンスクール	市内各小中学校
11月1日	児童虐待防止川柳表彰式	中央公民館
11月1日	笠岡市総合教育相談支援センター運営委員会	笠岡市総合教育相談支援センター
11月2日	笠岡市文化祭・芸能祭・菊花展	笠岡市民会館
11月3日	笠岡市功労表彰式	笠岡グランドホテル
11月3日	第19回笠岡市青少年スピーチコンテスト	笠岡市保健センター
11月8日	笠岡工業高校創立80周年記念式典	笠岡市民会館
11月9日	森田思軒顕彰講演会	笠岡市立図書館
11月16日	岡山県・笠岡市合同防災訓練	笠岡総合スポーツ公園
11月19日	第3回行政協力委員長副委員長会議	笠岡市保健センター
11月23日	第47回青少年健全育成推進大会	笠岡市保健センター
12月7日	津雲貝塚講演会	笠岡市民会館

月 日	行 事	場 所
12月8日	笠岡市中央公民館まなびの発表会	中央公民館・笠岡小学校
12月15日	カブトガニ駅伝大会	かさおか太陽の広場
1月7日	笠岡の教育について教育長と語り合う会	教育委員会会議室
1月12日	成人式	笠岡市民会館
1月15日	笠岡市人権教育推進委員会	教育委員会会議室
1月17日	笠岡市公民館協議会	中央公民館
1月23日	第36回笠岡市教育委員会杯G・G交歓大会	笠岡総合スポーツ公園
1月25日	茅原基治顕彰講演会	笠岡市民会館
1月26日	「笠岡から子どもの「今」と「未来」を考える」	笠岡市保健センター
2月1日	市長と語る会, 教育長との懇談会 (笠岡市PTA連合会)	中央公民館
2月6日	笠岡警察署協議会 令和7年第1回定例会	笠岡警察署
2月9日	第36回笠岡市生涯学習フェスティバル	笠岡市民会館
2月12日	第30回子ども・子育て推進会議	笠岡市民会館
2月13日	学校給食センター運営会議	学校給食センター
2月17日	笠岡市文化・スポーツ振興財団理事会	中央公民館
2月17日	第2回笠岡市要保護児童対策地域協議会	サンライフ笠岡
2月19日	笠岡市交通安全協議会 正・副部会長会議	笠岡市市民活動支援センター
2月20日	笠岡市青少年問題協議会	教育委員会会議室
2月20日	第1回第8次総合計画審議会	笠岡市民会館
2月23日	笠岡公民館文化祭	中央公民館
2月23日	笠岡市美術展表彰式	笠岡市民会館
2月27日	坂本音一育英会理事会	教育委員会会議室
3月2日	木山捷平文学選奨表彰式・木山捷平講演会	笠岡市保健センター
3月5日	笠岡市青少年健全育成連絡協議会役員会	教育委員会会議室
3月8日	ひまわり認定こども園竣工記念式典	ひまわり認定こども園
3月9日	べいふあーむ笠岡マラソン大会	笠岡陸上競技場
3月14日	中学校卒業式	市内各中学校
3月16日	育海卒業式	旧飛島小学校
3月18日	文化財保護委員会	教育委員会会議室
3月19日	小学校卒業式	市内各小学校

月 日	行 事	場 所
3月19日	笠岡市文化・スポーツ振興財団評議員会	教育委員会会議室
3月21日	坂本音一育英会評議員会	笠岡市役所
3月22日	おひさま認定こども園卒園式	おひさま認定こども園
3月24日	笠岡市文化・スポーツ振興財団資産運用委員会	教育委員会会議室
3月24日	笠岡市防災会議	中央公民館
3月24日	第1回金浦中ブロック小中一貫教育校整備検討委員会	笠岡市役所
3月24日	第2回笠岡市社会教育委員会	教育委員会会議室
3月25日	市民会館運営委員会	笠岡市民会館
3月26日	くわのみすくすくえん卒園式	旧白石幼稚園
3月27日	藤井育英会理事会	教育委員会会議室
3月28日	DX推進本部会議	笠岡市役所
3月31日	退職辞令交付式	中央公民館

(4) 学校及び教育施設への支援

○教育委員による学校・教育施設訪問

小学校3校，中学校1校，幼稚園1園，教育施設等2施設を訪問した。

(前年度 小学校2校，教育施設等4施設)

月 日	学 校 等	教育施設等
10月18日	笠岡小学校，神島外中学校， 神島外小学校（給食）	郷土館
1月28日	北木小学校，北木西幼稚園 （荒天のため取止：六島小学校）	笠岡市総合教育相談支援 センター富岡分室

各学校における教育目標，指導の重点を確認し，授業や交流活動，ICTの活用状況，施設整備状況，地域との連携，小中一貫教育等の実情を視察，現在抱える課題等について意見交換した。学校開放の時期等を活用して，随時，児童生徒の活動状況を見たり，授業を参観して課題の把握に努めている。

- ・笠岡小学校…自由進度学習や今井小学校との統合2年目の様子等について情報共有を行った。
- ・神島外中学校…中学校祭での総合学習の発表・学校生活の様子等を見学した。
- ・神島外小学校…給食を試食したあと，授業の様子等を参観した。
- ・北木小学校・北木西幼稚園…複式学級での授業や小規模校園での様子等を参観した。
- ・笠岡市総合教育相談支援センター富岡分室…施設や利用状況等の説明を受けた。

2 教育委員会が管理・執行する事務

(1) 教育行政の運営に関する基本方針

令和4年度に策定した「第3期笠岡市教育振興基本計画」の基本理念である“学ぶ楽しさ、輝く個性、生き抜く力”に基づき、「「学び」「育ち」をつなぎ、自立して共に生きる子どもを育てる学校教育の推進」5施策、「市民一人ひとりの豊かな学びにより地域力を高める生涯学習の推進」4施策、「幅広い世代が楽しめる文化・芸術の振興と担い手の育成」4施策、「誰でも気軽に楽しめる生涯スポーツの振興」3施策の各教育行政基本施策を推進した。

(2) 規則等の改廃

規則、規程、要綱の改正を行った。

- ①笠岡市幼稚園副食費助成金交付要綱の一部を改正する要綱について
- ②笠岡市立学校寄宿舎設置条例施行規則を廃止する規則について
- ③笠岡市立幼稚園一時預かり保育事業実施要綱の一部を改正する要綱について
- ④笠岡市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について
- ⑤笠岡市教育委員会事務局事務決裁規則の一部を改正する規則について
- ⑥笠岡市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則について
- ⑦笠岡市中学生学力向上に向けた検定チャレンジ受検料補助金交付要綱を廃止する要綱について
- ⑧笠岡市立図書館規則の一部を改正する規則について
- ⑨笠岡市立視聴覚ライブラリー条例施行規則の一部を改正する規則について

(3) 教育関係予算

教育行政に関する令和7年度当初及び令和6年度補正予算を審議した。

(4) 教育委員会の所管に属する学校、その他の教育機関の設置又は廃止 設置及び廃止はなかった

(5) 職員の任免に関すること

教育委員会事務局職員の人事異動、小・中学校長等の人事異動の内申、幼稚園長等の人事異動、地区公民館長の任命について審議した。

(6) 教科用図書の採択の決定に関すること

中学校全科目

(7) 法令等で定められた諮問機関の委員の委嘱

公民館運営審議会委員，学校運営協議会委員，笠岡市社会教育委員，笠岡市図書館協議会委員，笠岡市学校給食センター運営委員会委員，笠岡市立竹喬美術館協議会委員，笠岡市立カブトガニ博物館運営委員会委員，笠岡市スポーツ推進審議会委員，笠岡市地域学校協働活動推進員 を委嘱した。

(8) 市重要文化財の指定及び解除

指定及び解除はなかった。

(9) 教育委員会の点検評価報告書の作成

令和5年度の教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価を実施し，報告書の作成を行った。

評価

- ・ 毎月の定例会や必要に応じて開催される臨時会での報告，学校規模適正化計画の地元説明会の報告，児童・生徒指導状況，学校給食の残食状況，そのほか今日的・緊急的課題について，教育長を含む教育委員全員で，非公式協議や意見交換，メールでの報告等を随時行うなど，教育委員会として，様々な情報を共有することができた。
- ・ 総合教育会議については，令和5年度は1回の実施だったが，令和6年度は2回実施した。学校規模適正化計画の改訂や長欠不登校総合対策について，市長と教育委員で積極的な意見交換を行い，情報共有を図ることができた。
- ・ 教育委員を対象に開催される「市町村教育委員会研修協議会」などの研修に積極的に参加することができた。
- ・ 学校への施設訪問については，2回開催し，昨年度よりも多くの学校園を訪問することができた。（令和6年度：4校1園，令和5年度2校）委員から訪問希望のあった島しょ部の学校園での児童園児の生活の様子・環境を実際に見ることで，現状把握をすることができた。神島外中学校では，中学校祭で生徒が地域学習で調べたことをいきいきと発表している姿を見学することができた。

A

課題と方向性

- ・毎月の定例会等での議事及び協議・報告については、原則、公開としており、申出により傍聴することができる。令和4年度より議事録をホームページ上で公開しており、市民により開かれた教育委員会を目指す。
- ・市長と教育委員会が、円滑に意思疎通を図り本市教育の課題・目指す姿等を共有することが、より効果的に教育行政を推進していくことにつながると考えている。引き続き、総合教育会議等、様々な機会を捉えて、現在の教育課題や方針等を共有し、より一層の連携を図っていく。
- ・教育委員の研修や各種行事等について、今後とも積極的な参加に努める。
- ・教育施設への訪問については、現場の状況を把握するための大変重要な取組みであると考えている。今後も訪問を継続することにより、教職員等と情報共有・意見交換を行うとともに、児童・生徒の活動の様子を見学し、現在抱える課題等の把握に努める。
- ・学校規模適正化計画について、教育委員会への情報提供を引き続き緊密に行うことで、共通認識をもって着実に推進していきたい。

3 教育行政基本方針・基本施策

《「学び」「育ち」をつなぎ自立して共に生きる子どもを育てる学校教育の推進》

基本施策1 (重点) 自立した子どもの育成

(学校教育課)

1- (1) 自ら学びに向かい、課題を解決する力を育成するための教育活動の充実

目 標

落ち着いた学習環境づくりを行うため、就学前教育から義務教育へのつながりを大切にしながら自己肯定感・自己有用感の醸成及び人間関係づくりに努めます。子どもたちが夢や目標をもち、自ら課題を見つけてその解決に主体的に取り組む力を養うことができるよう、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、学習に主体的に取り組む意欲や学んだことを活かそうとする態度の育成を図ります。また、個に応じたきめ細やかな学習方法の工夫・改善により、学ぶ意欲の向上を図ります。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
基本	いきいき交流スクール事業	<p>●小規模校が増加する中で、子どもたちが授業等を通して、多様な考えや多くの人間性に触れる場を意図的、計画的に設定し、一人ひとりの子どもたちの主体的に学ぼうとする心情や豊かな感性の育成を図る</p> <p>◆参加校：神島外小学校，北木小学校，六島小学校</p> <p>▲複数の小規模校が教科の学習等とともにを行うなど授業を通じた学校間・地域間の交流活動を推進する。</p>	134
基本	転入学特別制度	<p>●豊かな自然環境や少人数の中での教育活動を特色とした小・中学校を指定し、その教育方針に賛同する児童生徒並びに保護者に対して、特別に入学又は転入学を認めることにより、特色ある学校生活を送ることができるようにする。</p> <p>◆「わくわくシーサイドスクール」活用児童：1名 「神島外小学校転入学特別制度」活用児童：6名 「神島外中学校転入学特別制度」活用生徒：7名</p> <p>▲極小規模校のメリットを生かし、その教育方針に賛同する児童生徒並びに保護者に対して、特色ある学校生活を送ることができるようにする。</p>	—

1 - (2) 確かな学力を身に付けるための教育内容・方法の充実

目 標

子どもたちが落ち着いて学習に取り組み、友達と切磋琢磨する中で、基礎・基本の定着を図ります。さらに個に応じたきめ細かな指導やICT機器の活用等の指導方法の工夫、改善により、学ぶ楽しさを実感させ、授業や家庭学習等に主体的に取り組む意欲や態度を育成します。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
重点	少人数指導研究事業、非常勤講師等単市加配配置計画	<p>●県の加配を活用して少人数指導を実施したり、単市で非常勤講師を配置して少人数での算数の授業や中学校から小学校への乗り入れ授業を実施したりする。学習内容の積み上げが特に重要な教科の指導を充実させることで、児童生徒の学力向上を図る。</p> <p>◆笠岡東中学校、笠岡西中学校及び金浦中学校に国語・数学・理科免許保有者6名の教諭、講師（県費）を配置した。 非常勤講師2名（県費）を中央小・大井小、非常勤講師3名（市費）を中央小・城見小・新山小に配置した。</p> <p>◆県の加配および単市で、校種間の円滑な接続のため、市内中学校ブロックにおいて、中学校から小学校への乗り入れ授業を確実に実施するための教諭、講師を配置した。 配置校 笠岡東中・笠岡西中・金浦中・新吉中・大島中 神島外中 (教諭2名：県費 非常勤講師6名：市費)</p> <p>▲児童生徒の学習意欲の向上、及び教員の指導力向上を図る。</p>	—
重点	学習の機会の充実事業	<p>●児童生徒の学習に対する意欲・関心を高め、学習習慣の定着を図るために、放課後、夏季休業中に学習の場を提供することで、学習内容の確実な定着を図り、児童生徒の学力向上に資する。</p> <p>◆〈かさおか夏チャレンジ事業〉 参加人数 203人 実施場所 市内 9小学校 4中学校 主体的な学びの基盤づくり事業 参加人数 191人 実施場所 市内 8小学校 206人 市内 4中学校 (※教員による補充学習を含めると全校実施)</p>	1,376

		▲継続的に学習を行うことで、児童生徒の学習習慣の定着と学力向上を図る。	
重点	笠岡市中学生学力向上に向けた検定チャレンジ	<p>●検定に向け自主的・積極的に取り組むことで、学習意欲及び基礎学力の向上を図る。</p> <p>◆補助金実績 英語検定 91名 数学検定 24名 漢字検定 64名 補助金申請率 18.1% (補助金申請者(延べ人数)／市内中学生総数×100)</p> <p>▲継続的に取り組むことで、学習意欲及び基礎学力の向上を図る。</p>	782
重点	I C T支援員配置事業	<p>●授業等で使用する ICT 機器の活用支援を行う ICT 支援員を配置するとともに、状況に応じて教育委員会事務局や各校へ訪問できる人員を配置し、「授業における ICT 支援」「校務における ICT 支援」を行うことで、教員の負担や校務処理を軽減し、児童生徒に向き合う時間を確保する。</p> <p>◆派遣校 小学校 14校 中学校 8校(小北中含む) 学校 ICT 支援員 約8人</p> <p>▲機器の設定や細かな操作方法等、教職員への支援から、生徒への技術指導や ICT 機器を用いた授業のサポートなど、各校の要望に応じて、臨機応変に支援することで授業内容の充実を図る。</p>	39,930
重点	外国語指導助手配置事業	<p>●児童生徒の外国語に対する関心を高め、国際理解等に係る認識を醸成することを目的に、生きた英語に触れる機会を確保することで、コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>◆外国語指導助手 (ALT) を9名配置した。 配置校 小学校14校 中学校8校(小北中含む)</p> <p>▲英語の授業において、担任を補佐し、生きた英語を子どもたちに伝えることで、生徒の意欲関心の向上につなげる。</p>	47,099
重点	A I教材整備事業	<p>●G I G Aスクール構想で整備した学習者用端末を効果的に活用できるA I教材を全児童生徒に導入し、その蓄積されたデータ等を適切に活用することで、個に応じた学習支援につなげる。</p> <p>◆ドリル教材及び授業支援アプリの導入 小・中学校各2校において学力調査を実施し、有効的な活用と効果について検証した。</p>	5,752

		<p>▲学習意欲向上と基礎学力定着を図った。また、個に応じた指導を行うことで学びに向かう力の育成を支援し全体の学力向上を図った。</p>	
基本	教員研修会事業	<p>●講師を招き、授業づくりの演習等から授業の改善点、学習集団づくりの留意点について考えたりすることを通して、自身の教師力向上を図る。</p> <p>◆研修会実施</p> <p>特別支援教育研修会 7月29日(月) 8月5日(月)</p> <p>コーチング研修会 5月29日(水)30日(木) オンライン研修 7月25日(水)26日(木) 対面研修</p> <p>▲教師力向上を目指す研修を実施する。</p>	—
基本	指導者用デジタル教科書整備事業	<p>●指導者用デジタル教科書を整備することにより、教員が日常的に工夫しながら活用し、分かりやすい授業を展開することで、児童生徒の学力向上を図る。</p> <p>◆教科書に準拠した指導者用デジタル教科書を整備、活用</p> <p>小学校全学年(国語・算数) 5年生以上(社会・外国語) 中学校全学年(国語・数学・理科・社会・英語)</p> <p>▲教員が有効に活用してわかりやすい授業を行う。</p>	5,581
基本	小学校理科観察実験アシスタントの配置事業	<p>●主として5、6年の理科の授業に対して外部人材を観察実験アシスタントとして配置することにより、授業における観察・実験活動の充実及び教員の資質向上を図るとともに、小学校における理科教育の充実に資する。</p> <p>◆配置校 笠岡小・中央小・金浦小・城見小・大井小 吉田小・北川小・大島小・神内小 (支援員3人)</p> <p>▲専門的な支援・アドバイスにより、児童の理解面、技能面での向上を図る。</p>	3,852

評価

〈学力調査（全国・県）結果の活用状況〉

- ・学力調査結果分析後は、指導の重点や授業改善の視点が明確になるように「学力向上改善プラン」の様式を変更し、2学期以降の指導に生かすようにした。学力向上担当者会で共有したり、後期の学校訪問の際に助言したりして、各校の取組が継続するようにした。
- ・算数・数学では、小中学校ともに全国・県平均を4ポイント下回る厳しい状況となった。9年間の学びのつながりを意識したイメージ図を作成したり、夏季休業中や放課後の補充学習に全校で取り組んだりした。
- ・将来の夢や目標を持っている児童生徒の肯定的割合は、小学校6年生78.6%、中学校3年生67.8%と小学校では全国・県平均を下回り、中学校ではやや上回った。身近な目標、具体的な目標を定め、努力することができるように指導していく必要がある。

〈一人一台端末の利活用〉

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を推進するリーディングDXスクール事業指定校の取組を市内に発信したり、振り返りシート等のデータをドライブで共有したりして、全校で使用できるようにした。
- ・学力向上担当者会では、チャットや他者参照を取り入れた研修を企画し、研修が自分の体験となり、授業に活用できるようになることをねらった。

〈研修機会の充実〉

- ・学びの伴走支援の一助とするためのコーチング研修を年4回実施した。
- ・小中一貫教育の推進、系統性を意識した授業づくりに向け、笠岡市教育研修所の各部会を小中合同部会として再設定し、小中の教員がともに研修する場を増やすことができた。

B

課題と方向性

【課題】

○全国学力・学習状況調査 算数・数学

- ・県平均を4ポイント下回っている。
- ・正答率が40%以下の割合が高い
- ・学年が上がるにつれて県・全国との差が開く

→学びのつながりを意識した指導、定着状況を確認に見取った個に応じた指導が不十分

○ICTの活用率が低い

「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」（R6県調査）

【ほぼ毎日】 中2 31.1% (R6.4) → 56.7% (R6.11) (県平均50.6%)

小5 17.3% (R6.4) → 35.4% (R6.11) (県平均46.9%)

小学校で特に活用率が低い。「個別最適な学び」の実現には、ICT端末の効果的な活用が必須であり、授業改善は急務の課題。ICT活用が目的となるのではなく、「学びたい」「調べたい」「発信したい」と感じられる学びとICT活用の融合が必要である。

【方向性】

全国・県学力調査において、小学校・中学校ともに平均正答率が全国平均を上回る。

「授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」(R6 県調査)

[ほぼ毎日] 中2 31.1% (R6.4) → 56.7% (R6.11) (県平均 50.6%) → R7 目標 90%

小5 17.3% (R6.4) → 35.4% (R6.11) (県平均 46.9%) → R7 目標 80%

地域探究学習を含めた、「学びを活かす」「学んだことを使いこなす」授業づくり・場の設定を促し、新しい時代に求められる資質・能力が育てられるようにする。

- ・学んだことを使いこなす場を設定し、学習内容の定着を図る。
- ・アウトプットの場として、おかやま学びたい賞フォーラムや笠岡市生涯学習フェスティバル等も案内し、目的意識や相手意識をもって表現することを推奨する。また、必要に応じてその取組を市内に共有し、各校の取組の充実を図る。

小中合同部会や小中一貫教育学園内研究の充実に向けて、研修日時や内容等を共有し、校種を超えた研修が充実するようにする(笠岡市教育研修所)。それらの研修に係る事務書類はクラウド上で共有したり提出したりすることができるように整え、教職員の負担軽減を図る。

基本施策 2 (重点) 共生の心の育成

(学校教育課)

基本施策 2 - (1) 豊かな人間性を育む教育の充実

目 標

子どもたちが基本的な生活習慣や規範意識を身に付け、豊かな人間性や社会性を育む「心の教育」の充実を図ります。特に、人、社会、自然などとかかわる体験活動の充実や家庭や地域連携を通して、道徳教育の充実に向けた取組を推進します。また、いじめ、不登校、問題行動の未然防止、早期発見、早期解決に取り組み、子どもたちの好ましい人間関係づくりを推進します。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
重点	ひろがる未来応援事業	●交流活動や地域探求活動、体験活動等を通して、人々の思いや願い、多様な考えに触れ、互いの良さを認め尊重し合いながら、自らの生き方を考えたり他者と協働して身近な課題を解決しようとする子どもを育てる。 ◆神島外小学校の5、6年生は、「防災」をテーマにした探究学習の中で、地域の方々の安心・安全に暮らしたいという願いを知り、これまでの海岸沿いの避難経路を見直した避難訓練を地域の方々と協力し、実施した。また、神内小学校の6年生は、神島八十八か所霊場をPRするため、誰	2,990

		でも参加できるお遍路ツアーを地域の方々と連携しながら企画し実行するなど、各中学校ブロック等が実施する教育活動や取組、その他特色ある教育活動等に取り組んだ。 ▲創意工夫して、多様で広範囲な体験活動を取り入れた特色ある教育活動を円滑に実施する。																	
重点	いきいきチャレンジ たいけん実施事業	●中学生が地域の事業所において、職場の方々とのふれ合いや活動をとおして、社会人としての責任や苦勞、仕事の大切さやルール等について学び、主体的に自らの生き方や進路を選択していかうとする意欲や態度を育成する。 ◆市内中学校7校、第2学年の生徒が4日間の職場体験を実施した。体験活動は受入事業所を中心に行い、受け入れ先指導担当者による指導のもと、日常の教育活動の一環として行った。 ▲キャリア教育において、非常に意義のある体験活動を、地域の協力を得ながら、継続していく。	153																
重点	笠岡市教育活動支援事業	●支援員を配置することにより、支援を必要とする児童、生徒に適切な学習環境を提供するとともに、教職員が一体となった支援を行うことで教育活動の充実を図る。 ◆小学校9校、中学校5校へ40人配置した。 ▲子どもたちの居場所づくり、適切な学習環境づくりのために、ニーズに応じて配置していく。	56,681																
重点	笠岡市総合教育相談支援センター事業	●相談体制を整備することにより、不登校やいじめ等の問題行動の未然防止に努める。 ◆通室数及び相談・支援件数（小北中含む） <table border="1" data-bbox="584 1391 1329 1830"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通室児童生徒数 (含仮通室)</td> <td>22名 (小2・中20)</td> <td>14名 (小3・中11)</td> <td>10名 (小1・中9)</td> </tr> <tr> <td>教育相談業務</td> <td>延べ 665件</td> <td>延べ 435件</td> <td>延べ 681件</td> </tr> <tr> <td>教育支援業務</td> <td>延べ 966件</td> <td>延べ 699件</td> <td>延べ 581件</td> </tr> </tbody> </table> ◆市内不登校出現率 小学校 1.3% 中学校 4.4% ▲小中学校とより一層の連携を図り、学校復帰に向けての組織的な対応を継続していく。		令和4年度	令和5年度	令和6年度	通室児童生徒数 (含仮通室)	22名 (小2・中20)	14名 (小3・中11)	10名 (小1・中9)	教育相談業務	延べ 665件	延べ 435件	延べ 681件	教育支援業務	延べ 966件	延べ 699件	延べ 581件	18,651
	令和4年度	令和5年度	令和6年度																
通室児童生徒数 (含仮通室)	22名 (小2・中20)	14名 (小3・中11)	10名 (小1・中9)																
教育相談業務	延べ 665件	延べ 435件	延べ 681件																
教育支援業務	延べ 966件	延べ 699件	延べ 581件																

重点	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置事業	<p>●市内全小・中学校にスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒や保護者からの相談に対応したり、家庭環境等の問題に対応したりする。</p> <p>◆スクールカウンセラー 12名配置 スクールソーシャルワーカー 3名配置</p> <p>▲市内全小・中学校にスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒や保護者からの相談に対応する。</p>	—
基本	人権教育自立促進事業	<p>●人権学習を通して正しい知識と理解をもち、様々な人権問題に真摯に向き合える人格の形成を図る。また、教科学習を通して、基礎学力を習得し、自らの力で進路を切り開いていく力を育てる。</p> <p>◆吉田小 17回、笠岡西中 33回、新吉中 12回</p> <p>▲学校・地域が連携し、こどもたちの健やかな成長を支援していく。</p>	281

評価

<p>「人が困っているときは進んで助けている (R6 全国学力・学習状況調査)」 肯定的回答した児童生徒の割合 小学校6年生 89.7% 中学校 89.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導において、「未然防止」「早期対応」「対処対応」の取組について、事実関係を丁寧に洗い出し、先手を打つことで効果的な生徒指導を行うことができた。 ・「笠岡市長期欠席・不登校総合対策」の概略図を作成し、総合教育相談支援センターを中心とした児童生徒の状態に応じた支援の在り方について、校園長会で共有するとともに、定期的に本市の現状を伝え、最優先すべき取組として情報発信をした。各校においては、毎月入力する支援対象者リストを活用し、職員会議等で共通理解を図ることで、学校全体で個々の状況を把握し、早期対応、組織的な対応に取り組むことができた。 ・自立応援室を市内中学校7校（島しょ部を除く全校）、小学校6校（笠岡小、中央小、金浦小、大井小、神内小、大島小）で設置し、学校に行きにくい子どもや教室に入りにくい子どもへの支援の一助となった。 <p>〈不登校者数/長期欠席者数〉 小学校… 8名/39名 (R4) →25名/63名 (R5) →23名/65名 (R6) 中学校…49名/93名 (R4) →41名/79名 (R5) →43名/73名 (R6)</p> <p>〈不登校出現率〉 小学校 0.3% (R4) →1.3% (R5) →1.3% (R6) 【R5 全国との差 -8P】 中学校 4.8% (R4) →4.0% (R5) →4.4% (R6) 【R5 全国との差-27P】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒のSC・SSWとの連携は概ね図れており、子育て支援課や児童相談所との関わりも増えて、関係機関との連携率は高い。また、新たな居場所づくりとして、飛鳥学園「育海」（民間フリースクール）と連携し、自然豊かな笠岡諸島の飛鳥に相談室を開設 	B
--	---

し、6名の児童生徒が通室している。 総合教育相談支援センター通室者数 22名(R4) → 14名(R5) → 10名(R6) 飛島相談室通室者数 6名(R5) → 6名(R6)	
--	--

課題と方向性

【課題】

- ・スマホやSNS等のインターネットの利用によるトラブルや人間関係のトラブルが散見される。家庭におけるルール作りやペアレンタルコントロール（保護者が子どもが使用するスマートフォンやゲーム機などを制限・管理する機能）の必要性について啓発していくとともに、学校においては利用の危険性等も含めた指導に加え、警察等との連携による非行防止教室を実施するなど対策を強化していきたい。
 - ・「地域を学びのフィールド」にした地域と連携した探究活動を、今後さらに市内各学校で展開していくために、家庭と地域住民が学校経営に参画するコミュニティー・スクールの取組や、児童生徒の「学びたい」「調べたい」「発信したい」等の思いに寄り添う伴走支援を行う。
 - ・複雑な問題を抱える家庭が多く、学校ができる支援には限界があるため、今後より一層の関係機関との連携が必要である。
 - ・生徒指導については、「未然防止、早期対応、組織的対応について意識を高く、関係機関と密に連携した、先手を打つ対応」を学校へ指導していく。
 - ・小学校の長期欠席・不登校者数が増加、低学年化が進んでおり、幅広く、より一層の個別の支援・対応が必要である。
 - ・前年度からの長期欠席・不登校児童生徒への継続支援はもちろんだが、新規の10日以上29日以下の欠席者（予備軍）へのアプローチをより組織的に行うことが課題である。
 - ・支援対象者リストやステップアップ支援シート等を有効活用を周知し、状態に応じた居場所の確保と次なる支援策の展開を図るとともに、11日～29日の欠席者（予備軍）への早期アプローチを図る。
 - ・市内小中学校に配置された自立応援室担当教員の連絡会を学期1回開催し、校種間の効果的な接続に関する手立てを協議することで入学後の先手の対応につなげたい。さらに、自立応援室運営に関わる協議、支援ツールの共有等を行うことで校内支援体制の整備強化を推進する。
 - ・校内自立応援室や総合教育相談支援センターに通室しながら、端末やオンラインを活用して学習や活動に参加する方策について積極的に展開する。
 - ・笠岡市総合教育相談支援センターを旧今井小学校へ移設すると共に、3つの支援強化を通して、学校以外の居場所の充実を図り、未然防止と状態の好転を目指す。
- 「学校支援」・・・センター職員が学校を訪問し情報共有・情報提供を行い、家庭以外の場所で支援を受けられていない児童生徒について、飛島相談室も含めた学校以外の居場所を含めた学ぶ機会の確保について学校と共に協議する。さらに、校内自立応援室の有効活用について助言を行う。
- 「訪問支援」・・・相談員が定期的に学校に入り、自立応援室支援充実や小中学校の連携促進を図る。
- 「通室児童生徒支援」・・・学校以外の場所で児童生徒が自分のペースで生活や学習できる居場所として、利用促進を図ると共に端末やオンラインを活用して授業等に参加する方策を積極的に展開する。

基本施策 2 - (2) 健康教育の充実と食育の推進

目 標

子どもの心身の健康を保持，増進していくために，「早寝・早起き・あいさつ・朝ごはん」の生活習慣の定着を図り，健康を大切にする意欲や態度を育て，生涯を通じて自らの健康を適切に管理し，改善していく実践力の育成に努めます。

学校給食において，安全・安心を最優先に衛生管理の徹底に努め，栄養教諭と連携して食に関する指導の充実を図り，望ましい食習慣の確立に取り組みます。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
基本	地産地消を推進する食育啓発事業	<p>●学校給食を生きた教材として捉え，栄養教諭と連携し学校・家庭・地域における食育を推進する。</p> <p>◆地産地消食材の積極的な活用と，栄養バランスや規則正しい食生活の大切さを理解する食育指導を行うとともに，「食」が繋ぐ社会の仕組みや食品ロス等のSDGsの社会問題への関心を深めることに努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消食材の活用（R6 目標 50%以上） 県内産購入額 61.6%（R5 59.6%） （例）笠岡産パプリカ，トマト，笠岡産焼き海苔，城見小地区もちむぎ，県内産有機栽培の人参等 ・給食で使用する地域食材の生産者や給食に携わる人々のメッセージ動画を学校に配信し，給食時間の指導媒体として提供した。 笠岡産パプリカ，矢掛ジャンボにんにく，笠岡のり，精肉店，もやし工場，食品業者，給食センター調理員 ・食育指導の実施（R6 目標全クラス） 173回（R5 22回） <p>▲地産地消の食材や「食」が繋ぐ社会環境に関心を持ち，日々の生活の中で「食」へ積極的に関わろうとする意識が持てるよう指導する。</p>	—
基本	健康教育の推進・啓発事業	<p>●基本的な生活習慣を身につけるとともに，必要な質・量・栄養を摂取し自己の健康管理に取り組む姿勢を育てる。</p> <p>◆「朝食を食べる」など「食」に関する意識調査のアンケートを行い，学校給食や家庭での食事における栄養バランスのとれた食習慣の大切さが理解できるよう関連する情報提供や食育指導を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食等に関するアンケートによる毎日の朝食摂取率 	—

		<p>(R6 目標 80%以上)</p> <p>小学生 86.0%, 中学生 74.7% (R5 86.2%, 75.9%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食指導の実施 15回 (R5 15回) ・栄養バランスが大切と思うアンケート結果 <p>(R6 目標 85%以上)</p> <p>小学生 84.5%, 中学生 87.7% (R5 84.8%, 85.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提供量に対する残食率 <p>小学校 15.3%, 中学校 17.8%, 全体 16.3%</p> <p>(R5 15.5% 21.0% 17.6%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の希望献立の実施 19回 (R5 11回) ・給食だより等の資料提供 毎月1回 (R5 毎月1回) ・食育に関する指導等 資料提供 全校に9回 ・施設見学の実施 7回 (R5 5回) <p>▲学校や家庭において、心身の成長と健康管理に大切な「食」への関心を深め、望ましい食習慣と適切な食事を意識する生活ができるようにする。</p>	
--	--	---	--

評価

<p>令和6年度には、栄養教諭が市内小・中学校の全学級を年間1回以上訪問し、給食の状況を把握するとともに、食育に関する指導や情報提供を行うことができた。</p> <p>地産地消食材の活用推進を図るとともに、地域の食材や給食に携わる人々を紹介する動画の作成、オリンピック開催国に関連する料理の提供、読書週間には本に出てくる料理や食材を提供し本の紹介を行う等、給食を通じて、「食」への関心を深めることができた。</p>	A
---	----------

課題と方向性

<p>給食時間を活用しての食育指導では、献立ごとの温度、配膳量など給食の提供状況や残食の状況、食事の様子や時間が把握でき、より効果的な食育指導と残食率の減少が期待できる。学年に応じた基本的な食育テーマのほかにも、各教室にあわせて指導内容を工夫していきたい。</p> <p>また、給食時間のほか、学校や家庭とも連携しながら、より一層の「食」に関する指導の充実を図り、望ましい食習慣の確立に取り組みたい。</p>
--

基本施策 2 - (3) 学校体育, スポーツ活動の充実

目標

子どもたちの生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育て、体力の向上を図るとともに、自他の生命の尊重を基本理念として健康で安全な生活を送ることができる能力、態度、習慣を育てます。1週間あたりの総運動時間が短いこと、運動習慣の二極化の傾向があることなどから、幼児期からの多様な運動の経験、「わかる」「できる」楽しさがある授業の実践、体育的行事や運動部活動を通じた家庭、地域との連携等の充実を図り、運動に親しむ資質や能力を育てます。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
基本	小学校陸上運動記録会 中学校総合体育大会, 新人大会	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校陸上記録会や中学校総合体育大会や新人大会に参加することで、運動への意識を高める。 ◆小学校では記録会を、中学校では総合体育大会や新人大会を開催することができた。日頃の活動の成果を発揮する場があり、子どもたちの活動意欲の向上につながった。 ▲熱中症対策に万全を期した大会運営を行い、子どもたちの体力に無理のない運営方法を検討し、活躍の場を確保することに努める。 	199

評価

中学生においては、長座体前屈を除いて全国平均を上回っている。小学生においては、男子は一部の項目が全国平均並みだが、多くは全国平均を大きく上回り、女子は上体起こしを除いて全国平均を上回っており、日頃の運動の取組が成果として表れている。「運動やスポーツをすることが好き」の質問に「好き」と回答する割合について、小学生の男女で大きく改善され、全国平均よりも大きく上回っている。逆に中学生の男子については全国平均を下回り、女子は全国平均よりは若干上回っているが、昨年度より割合が減少しており、今後も小中学生への運動嫌いを増加させない取組が必要である。

B

課題と方向性

結果は概ね良好だが、柔軟性や持久力など一部に課題がある。運動やスポーツが「好き」と回答する割合の様子から、今後も基礎的な体力のバランス向上に向けた取組や運動嫌いを増加させない取組がより一層必要である。学校運営協議会で話題にして、家庭(PTA)・地域への協力を求めるとともに、体を動かすことの楽しさや、外遊び等の重要性をしっかりと子ども達に伝えていく。また学校だけでなく、地域全体でスポーツ活動を支える環境の構築について検討していく。

基本施策3 郷土愛の育成

(学校教育課)

目 標

学校(園)において、学校評議員会や学校運営協議会等を通して、地域住民や保護者の意見や助言を学校運営に生かすと共に、地域人材バンクや地域学校協働本部事業の活用を図るなど、地域ぐるみで子どもの教育を推進する体制づくりに取り組みます。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
基本	コミュニティスクール事業	<p>●校長の学校運営に関する権限と責任の下、地域住民及び保護者等の学校運営への参画等を進めることにより、学校と家庭、地域住民等の相互の信頼関係を基に教育力を高め、子どもたちの豊かな学びと育ちを実現する。</p> <p>◆中学校ブロックでの学校運営協議会の開催により保護者及び地域住民等の学校運営への参画や支援の促進を図った。</p> <p>中学校ブロック単位 6 協議会、学校単位 1 協議会</p> <p>▲中学校ブロックの家庭、地域、学校で子どもたちの成長を支える基盤となるよう継続して推進する。</p>	993
基本	ウェブサイトによる情報発信事業	<p>●インターネットを利用し、学校を紹介するとともに、お知らせや教育方針等の情報を積極的に発信することにより、地域に開かれた学校づくりを図る。</p> <p>◆全小、中学校に整備したウェブサイトを活用し、教育内容の公開、更新を行い、学校の方針や教育内容について広報し、学校教育への理解を図った。</p> <p>▲学校ホームページを活用し、教育活動の現状を公開し地域に開かれた学校づくりを継続して推進する。</p>	—
基本	いきいきオープンスクール事業	<p>●市内の小、中学校の教育活動の現状を一定期間、一斉に公開し、地域に開かれた信頼される学校を実現するため、学校が保護者や地域住民の意見や要望を的確に把握し、家庭や地域社会と連携協力を図る。</p> <p>◆11月上旬に、市内全校で児童生徒のすべての教育活動を公開し、アンケート等により、地域の方の要望や意見を聞くことができた。</p> <p>▲市内全校で教育活動を公開し、地域に開かれた学校づくりを目指す。</p>	—

評価

<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の活性化を目的に、岡山県の「地域学校協働アドバイザー」の派遣を依頼。笠岡東海成学園において、協議会での熟議を今後の活動に繋げていけるよう支援を受けた。 ・学校運営協議会で、ブロックの目指す子ども像の実現に向け、グランドデザイン、義務教育9年間を見通した活動などについて協議できた。また、学区の子どもの実態や課題への対応策など、学区一丸となって子どもたちの教育環境について話し合うことができた。 	B
---	---

課題と方向性

<p>学校運営協議会として、学校運営に参画しているという意識が浸透してきているが、学園間によって格差がある。今後も、より多くの意見の中で熟議がしっかりと進むよう、熟議の時間の充実、委員の人选、研修会などにより、委員が主体的に学校運営に参画しているという意識を市内全体で高めていきたい。</p>
--

基本施策4（重点） 小中一貫教育及び学校規模適正化の実施

（学校教育課）

目標

<p>小学校と中学校が共に義務教育の一環を形成する学校として、学習指導や生徒指導において互いに協力し、責任を共有して目的を達成するという観点から、双方の教職員が義務教育9年間の全体像を把握し、系統性・連続性に配慮した教育活動に取り組む。また、児童生徒の適正な規模を確保し、社会性の育成をはじめとする好ましい教育環境と学校運営体制を図る。</p>
--

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
重点	笠岡市小中一貫教育推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ●よりよい教育環境を構築するため、義務教育9年間を見通した教育課程を編制し、系統的な教育を実施する。 ◆すべての中学校区で教職員の合同研修や乗り入れ授業を充実させた。各中学校ブロックで情報交換や講師を招いての研修を行うことで、市全体で小中一貫教育を推進できた。 ▲小中の教職員の交流による相互理解の促進・意識改革を推進し、義務教育9年間を見通した系統性・連続性に配慮した教育活動を行うことで、指導の一貫性を確保する。 	7,877

重点	小中一貫教育及び学校規模適正化計画の実施	<p>●義務教育9年間の枠組みの中で一貫した指導や支援を行うとともに、集団の中でよりよい人間関係を築くことができるような望ましい学校規模にすることで、自立性、社会性、協調性を培う。</p> <p>◆将来の児童生徒数の予測を再評価したところ、予測を大きく下回る見込みとなった。そこで、市内全体の学校数と配置について、これまでの学校規模適正化計画を見直し、持続可能で特色ある教育を行っていくため、本計画を改訂した。</p> <p>▲市内小中学校の児童生徒の推移をみながら、自己形成に必要な集団活動を十分できる学校規模を確保する。</p>	—
重点	小中一貫教育コーディネーターの配置	<p>●小中一貫教育を推進するにあたり、課題の把握、情報の共有、合同研修会や乗り入れ授業等の調整等を行い、小中の円滑な接続を図る。</p> <p>◆学校運営協議会の企画、グランドデザインの策定、乗り入れ授業の調整等に取り組んだ。</p> <p>▲一貫教育の本格実施の中で、ブロック内の学校の調整役として、計画を推進する。</p>	4,834

評価

<ul style="list-style-type: none"> ・乗り入れ授業をすべての中学校ブロックで実施し、小中の教員がお互いの授業について積極的な意見交流を行うことで、小中の学習指導の一貫性を更に高めた。 ・令和5年度より小中一貫教育が本格実施されたが、中学校教員の小学校への乗り入れ授業等の成果で、中一ギャップが緩和され、令和5年度と令和6年度で中学生の長欠・不登校者数が減少し、大きな成果が見られた。 ・R6年5月に、金浦中学校ブロック施設一体型小中一貫教育校整備検討委員会を開催し、整備に向けた検討は立ち止まることとした。 ・大島みたけ学園において、「みたけっ子の学びと育ちをつなぐ小中一貫教育の推進～学びに向かう力を高める学習指導～」の研究主題のもと、公開授業を行うとともに、研究成果や課題を発表した。 ・児童生徒数の減少がこれまでの想定を上回ることから、今後の児童生徒数を精査し、これを踏まえた「学校規模適正化計画書」の改訂に取り組んだ。 ・改訂に当たり、4つの基本方針を改めて定め、小学校・中学校の各校が適正規模になるよう、ロードマップを作成した。 ・市内全ての地区で、地域住民及び保護者を対象に26回にわたって説明会を開催し、市民との意見交換を重ねて、適正化計画書改訂版（案）を作成した。 ・令和7年2月にパブリックコメントを実施し、調整を経て令和7年4月に改訂版を策定した。 	A
---	---

<R6 教職員アンケート> 「小中互いの良さを取り入れる意識の高まっている」 肯定的回答の割合 83% <R6 全国学力・学習状況調査> 「授業では課題の解決に向けて自分で考え自分で取り組んだ(中3)」 肯定的回答の割合 82.5% 「学校に行くのは楽しいと思う(中3)」 肯定的回答の割合 87.7%	
--	--

課題と方向性

- ・ 乗り入れ授業をすべての中学校ブロックで実施し、小中の教員がお互いの授業について積極的な意見交流を行うことで、小中の学習指導の一貫性を更に高める。
- ・ 学校規模適正化計画書の改訂の元、小中一貫教育推進計画の部分修正を行う。
- ・ 「学校規模適正化計画書改訂版」に基づき、児童生徒数の動きを注視しながら、学校規模適正化の具体化に着手する。
- ・ 陶山小学校の、城見小学校への令和9年4月の統合を目標に、保護者・地域への説明を行い、2校統合への賛同を得て、具体的な協議に入る。
- ・ 吉田小学校の、新山小学校への令和9年4月の統合を目指す。特に保護者への計画の周知徹底が懸念されるため、保護者対象のアンケートを実施した上で、地域への説明会での賛同を得て、統合に向けた協議を進める。

基本施策5 学校施設等の整備

(教育総務課)

目標

学習及び生活の場として、良好な環境を確保するとともに、安全性を備えた施設環境を形成することができるよう、施設整備に努めます。また、「笠岡市小中一貫教育推進計画」に基づき、小中一貫教育を実施するための施設整備に取り組みます。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
基本	小中学校防犯カメラ等設置事業	●校門や玄関、児童生徒昇降口等に防犯カメラ等を設置し来庁者確認等を行うことにより、学校内での安心安全な環境整備を図る。 ◆市内小中学校(小学校12校、中学校5校)に防犯カメラ等を設置した。 実施校：笠岡小、中央小、金浦小、城見小、大井小、吉田小、新山小、神内小、大島小、神島外小、	34,177

		<p>北木小, 北川小 笠岡西中, 金浦中, 新吉中, 大島中, 神島外中</p> <p>設置内容: 防犯カメラ44台, 赤外線センサー17台, モニター13台, レコーダー17台</p> <p>▲各校で適切な運用を行い, 故障等が生じた場合は適宜修繕にて対応する。</p>	
基本	小中一貫教育校の施設整備事業	<p>●「笠岡市小中一貫教育推進計画」に基づき, 施設一体型小中一貫校を整備する。</p> <p>◆金浦中学校ブロック小中一貫教育校整備のための検討委員会を2回開催した。学校規模適正化計画が見直されたため, 施設の配置図案・各階の平面図案の作成等には着手しなかった。</p> <p>▲令和7年4月に改訂した「学校規模適正化計画」に基づき, 「小中一貫教育推進計画」を見直す中で小中一貫教育校の在り方を再検討する。</p>	121

評価

<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の防犯カメラ等について, 予定通り設置することができた。 ・金浦中ブロック小中一貫教育校整備検討委員会では, 今までの会議で要望・意見の取り纏めを行うことができた。また, 学校規模適正化計画(案)を説明したうえで, 今後の小中一貫教育校に係る方向性について, 委員に周知することができた。 ・障害をもつ児童生徒が通う学校に手すり(2校)やスロープ(2か所)を設置し, 安全安心な学校生活を送れるように整備を行った。 	A
--	---

課題と方向性

<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の防犯カメラ等について, 適切な運用・点検等をする必要がある。教育委員会が中心となり, 学校と情報共有するなかで適切な運用・管理を徹底していきたい。 ・「学校規模適正化計画」に基づき, 「笠岡市小中一貫教育推進計画」の改訂に着手する必要がある。関係者との協議を十分に行い, 財政状況等も勘案しながら, 令和7年度中に今後の方向性を示したい。
--

《市民一人ひとりの豊かな学びにより地域力を高める生涯学習の推進》

基本施策6 (重点) 市民誰もが学びたいときに学ぶことができる機会の提供

(生涯学習課)

目 標

市民に多様な学習機会を提供するとともに、公民館や図書館等の社会教育施設の利用促進を図るため、各施設の環境整備・サービスの充実を図ります。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
重点	公民館等講座	<p>●講座を通じて、地域住民が気軽に集い、学び、多くの人と交流することによって、心豊かで潤いのある人生を送る機会を提供する。</p> <p>◆実績 講座数 344 講座 中央公民館講座生数 518 人 (実施状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館 主催講座： 4 講座 受講者： 1,030 人 (R5 4 講座 受講者： 1,060 人) 自主講座： 41 講座 受講者： 8,210 人 (R5 41 講座 受講者： 8,302 人) ・地区公民館 (20 館) 講座 : 299 講座 受講者： 61,868 人 (R5 309 講座 受講者： 60,311 人) <p>▲若い世代にも興味を持って集ってもらえるような講座づくりを検討する。</p>	1,387
重点	図書館事業	<p>●誰もが気軽に利用できる図書館を目指すことにより、来館者数の増加につなげ、市民の読書意欲を高める。</p> <p>◆実績 図書館 (本館) への来館者数 83,060 人 (R5 81,852 人) 図書館 (本館) での貸出冊数 223,857 冊 (R5 226,445 冊)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館運営事業 (カウンター業務, ブックスタート事業, 巡回文庫業務等) ・行事の開催 (こども図書館開館 15 周年記念としょかんまつり, 「笠岡子ども司書」養成講座, 紙芝居とおはなしの会, あかちゃんといっしょのおはなしかい, 子ども 	111,038

		<p>映画会, 本のリサイクル会, 講演会「備中兵乱記を読む」等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動図書館車旧車両の売却による財源確保。 ・ こども図書館施設長寿命化事業 (外壁改修工事) <p>▲総貸出者数を今後の指標とし, より広く市民に活用してもらえるよう, 来館せずとも受けられるサービス拡充にも力を入れていく。</p>	
基本	公民館活動助成事業	<p>●市民の主体的な参加のもとに行う各公民館独自の活動事業を積極的に推進することにより, 地域の課題解決を図り, 心豊かでたくましい人間尊重のまちづくりを推進する。</p> <p>◆実績 新規助成事業 5 事業 助成事業参加者数 23,240 人 20 地区公民館 105 事業 (R5 108 事業)</p> <p>▲地域ぐるみの社会参加活動を積極的に推進することで, 住民同士のつながりを強め, 地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進する。</p>	5,953
基本	まちづくり出前講座	<p>●市民の自主的な生涯学習活動を支援する。</p> <p>◆実績 受講者数 12,574 人 (R5 14,527 件) 開催数 347 回 (R5 354 回) 講座メニュー 80 講座 (R5 80 講座)</p> <p>▲令和5年度から講座終了後にアンケートを実施している。受講者のニーズを把握しつつ, 担当課と連携を図りながら講座内容の充実を図る。</p>	—
基本	市民大学教養講座事業	<p>●文化や知識を広い視野から吸収するための学びの場を提供することにより, 生きがいや豊かな人生を過ごすための一助とする。</p> <p>◆実績 参加者数 54 人 (R5 167 人) 開催回数 1 回 (R5 1 回)</p> <p>▲事業としては終了し, 公民館講座や出前講座などの充実を図り, 他部署とも連携して, 誰もが学べる環境整備を図る。</p>	25
基本	たくましい笠岡っ子事業	<p>●子ども達が自然体験や社会体験等を通じて自主的に活動していく中で, たくましさを身につける。また, 地域の職業体験や世代間交流を通じて, 地域への愛着を深める。</p> <p>◆実績 開催回数 2 回 (R5 2 回) 参加者数 34 人 (R5 30 人)</p> <p>▲事業としては終了し, 今後は公民館や民間団体などとの連携による体験機会の創出を図る。</p>	55

基本	生涯学習カレンダー等の作成・配布	<p>●情報誌を発行し、子どもの体験活動機会や家庭教育の支援に関する情報を提供し、児童の参加を促すとともに保護者の参加意欲を促進する。</p> <p>◆実績 発行回数 生涯学習カレンダー 年2回（186部／回） （R5年2回 206部／回） ぼっけえかさおかわんぱく宝箱 年4回（4,477部／回） （R5年4回 4,633部／回）</p> <p>▲情報をタイムリーに提供するため、Instagramによる情報発信を行う。</p>	145
----	------------------	---	-----

評価

<ul style="list-style-type: none"> ・公民館は、市民のニーズにあった講座、児童生徒を対象にした講座の開設及び講座の内容を拡充するなど工夫を行い、市民の学びの場として一定の成果をあげている。また、学術・文化・スポーツなど多種多様な活動を通じて、教養を深め、健康の増進を図るとともに、他世代の交流を深めることができた。 ・図書館は、土曜日に試行していた夜間開館（19～21時）を中止したことにより開館時間は前年度比約2.2%減少したが、本に興味をもってもらうための様々な取組を実施したことにより、本館への来館者数は約1.5%増加、貸出者数は約1.8%増加した。図書館利用の定着が伺える。図書館が遠く、来館しての利用が難しい市民のためには、陸地部と島しょ部の巡回業務を毎月1回行っている。陸地部では、移動図書館車の更新により、イメージアップにつながった。島しょ部では、平成2年度以来、34年ぶりに全島（小飛島を除く）への巡回が可能になった。各島から毎月、貸出希望の図書が多く出され、島民のニーズに合った図書を届けることができるようになった。遠方在住の市民の需要も高まってきている。 <p>移動図書館車旧車両の処分について検討し、官公庁オークションを利用して競争入札に付したところ、最低価格の約5.7倍の1,262千円で売却し、財源確保に貢献した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり出前講座は、受講団体別で見ると、小学校・高等学校が大きく増加しており、教科書にない学習の機会を提供することができた。 ・市民大学教養講座は、長年にわたり市民の教養向上や生きがいづくりに寄与してきたが、事業内容を精査したところ他の事業と類似重複が見られたことにより当該年度をもって終了することとした。今後は公民館講座や出前講座などの充実を図るとともに、他部署とも連携して、誰もが学べる環境整備を図る。 ・たくましい笠岡っ子事業は、参加者は一定数あったが、実施機会の拡大や参加者が限定的なことが課題であり、当該年度をもって終了することとした。今後は地域全体で子どもたちに多様な体験活動を提供できるよう、公民館や民間団体などとの連携による体験機会の創出や地域の担い手育成、情報発信の充実を図ることで体験学習環境の整備を進めていく。 	A
--	---

課題と方向性

- ・公民館は講座数及び受講者数ともに概ね前年同様の水準を維持している一方で、受講者の年齢層は高齢者が中心であり、若年層の参加が依然として低調である。中高生を始め若い世代が参加できるような講座の企画の検討や情報発信手段の工夫をしていく。また、中央公民館では令和6年10月から空室を学習スペースとして開放し、中高生を始め若い世代が訪れてくれるようになった。今後は、学習スペース利用者によるボランティアで高齢者にスマホの使い方をアドバイスをするなどの機会を作り、他世代が交流できる環境整備を検討する。
- ・図書館は、来館者の増加や、巡回文庫業務の充実などを目標にした図書館サービスを行ったことにより、いずれの利用状況も増加傾向にあり、一定の成果が出ている。しかし、住んでいる場所、障がいなどにより図書館の利用が難しい市民は多く、サービスが市内全域に広まっていない課題がある。紙の本での読書に困難を抱える人のためのサービス拡充、電子図書館の導入検討など、図書館に来館しなくても利用できる環境を整えていく必要がある。

基本施策7 生涯学習によるまちづくり

(生涯学習課)

目 標

地域課題の解決や地域の特徴を活かした地域づくりの場としての公民館やまちづくり協議会の取組の状況や活動の成果を広く知らせる等、市民や団体が活動成果を発信する機会をつくり、市民の主体的な学習や活動意欲を引き出します。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
基本	生涯学習フェスティバル	<p>●生涯学習に取り組む団体の活動発表の場を提供することにより、生涯学習への意欲を高めるとともに学習活動への参加を促す。</p> <p>◆実績 参加団体数 62 団体 (R5 65 団体) 参加者数 約 2,600 人 (R5 3,200 人)</p> <p>生涯学習功労者表彰, 舞台発表, 展示発表, 体験・販売等を実施した。また、高校生を対象にした「ポスターデザインコンテスト」を実施した。市内小学校が探究学習の成果を発表した。</p> <p>▲引き続き、市内小中学校による探究学習の成果発表など、幅広い世代に参加を促すとともに、長時間運営や進行の円滑化などの課題を解決するため運営方法の改善を行う。</p>	829

評価

生涯学習フェスティバルは、昨年に引き続き市内小学校による探究学習の成果発表を実施し、地域住民に地域の魅力を再発見してもらう機会を作ることができた。こども園・小学校・中学校・高等学校の参加もあり、より幅広い世代の参加を促し学びの輪を広げることができた。

このほか、「明るい家庭づくり」作文等、各種事業を開催し、市民に生涯学習活動の成果を発揮する場を提供することができた。

A

課題と方向性

生涯学習フェスティバルについて、これまでの実績を踏まえつつ多世代が気軽に参加しやすく学びの楽しさを実感できる場としてより魅力的な展開を目指す。参加者アンケートからの意見を反映し、今後も意見交換の場を設けながら、長年の課題であった事業内容の固定化の改善や進行の効率化を図り柔軟な運営体制を整えていく。加えて、飲食を通じた学びの提供や親子で楽しめる回遊型企画の導入など新たな要素の検討を進めている。

基本施策8（重点） 家庭・地域・学校と一体となった地域ぐるみの教育支援

（生涯学習課）

目標

家庭・地域・学校における人と人とのつながりの輪を広げる交流を盛んにするとともに、地域文化を高め、地域に誇りを持つことのできるように地域全体で子どもの健やかな成長を見守りながら、地域ぐるみの教育支援を行います。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
重点	地域学校協働本部事業	<p>●学校の支援活動を通じて、保護者、地域住民、学校関係者等の連携を深め、地域ぐるみで子どもを育てる体制を構築する。地域住民等の参画による学校教育を支援する組織を立ち上げ、子どもたちの学習支援、学校の環境整備や行事の支援を行うとともに、活動を通じて地域のつながりを強化する。</p> <p>◆実績 実施のべ日数 2,572日 (R5 2,602日) 年間ボランティア参加者数 28,303人 (R5 30,744人)</p> <p>市内14地区の小中学校で、地域住民や保護者がボランティアとして学校教育を支援した。(R5 14地区)</p>	2,385

		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校 14校 (R5 14校) ・中学校 6校 (R5 6校) <p>▲学校運営協議会との一体的な推進を図る。</p>	
重点	放課後子ども教室推進事業	<p>●児童生徒が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な学習や体験、交流活動を行えるように地域ぐるみで子どもを育てる体制を整備する。地域の多様な経験や技能を持つ人材等の協力を得て、放課後等を過ごす児童生徒に体験学習、学習支援、伝統文化体験等を提供する。</p> <p>◆実績 実施団体数 4団体 実施日数 のべ124日 (R5 延べ131日)</p> <p>市内4か所において、放課後や週末を中心に子ども教室を開設した。(R5 4地区)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間参加者数 延べ1,893人 (R5 延べ2,146人) <p>▲学校運営協議会との一体的な推進を図る。</p>	558
重点	土曜日教育支援事業	<p>●児童生徒が土曜日や休日等を安全・安心に過ごし、多様な学習や体験、交流活動を行えるように地域ぐるみで子どもを育てる体制を整備する。地域の多様な経験や技能を持つ人材等の協力を得て、土曜日や休日等を過ごす児童生徒に体験学習、学習支援、伝統文化体験等を提供する。</p> <p>◆実績 実施団体数 9団体 実施日数 のべ145日 (R5 延べ170日)</p> <p>市内9か所で土曜日等における授業や課外授業支援、学習等を行った。(R5 9地区)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間参加者数 延べ1,945人 (R5 延べ3,089人) <p>▲学校運営協議会との一体的な推進を図る。</p>	468
重点	青少年宿泊体験事業 (北木島宿泊研修所)	<p>●北木島特有の地域資源を活用した学習及び交流を提供することで、青少年の健全育成を推進するとともに地域の活性化に寄与する。</p> <p>◆実績 施設利用者数 1,266人 (R5 979人) 市内学校利用件数 11件</p> <p>北木島宿泊研修所の管理運営を指定管理によって運営し、島ならではの地域資源を活用した体験学習を提供した。</p> <p>▲受入体制や提供プログラムの継続により、充実した学習機会を提供するとともに、施設の環境整備を進めていく。</p>	5,691
基本	青少年健全育成事業	<p>●地区組織が補導活動、環境浄化活動、健全育成活動、啓発広報活動を実施することで、青少年の健全育成を推進する。</p> <p>◆実績 交付団体数 11団体 (R5 11団体)</p>	864

		<p>青少年育成運動推進指導員及び推進員数 9人</p> <p>▲学校との連携をより強化し、青少年を見守る体制を整備していく。</p>	
--	--	---	--

評価

<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動について、3つの事業（地域学校協働本部事業・放課後子ども教室推進事業・土曜日教育支援事業）とも実施日数・参加者数・ボランティア数等が減少した。参加者数増加や地域人材の活用に向けてさらなる工夫が必要である。しかし、どの実施地域においても、地域住民等の参画による学校教育を支援する体制や子ども達の学習支援や豊かな体験活動を提供する体制が構築されており、着実に成果を上げている。年2回の研修会を実施し、地域学校協働活動推進員や地域コーディネーター等が交流することで、役割を認識し意欲を増したり他地域のよいところを参考にしたりするなど効果が見られた。 ・青少年宿泊体験事業は、学校の海事研修としての利用だけでなく、一般の利用も増加した。 	B
--	---

課題と方向性

<p>地域学校協働活動では、地域学校協働活動推進員と地域コーディネーターを中心に地域と学校がよきパートナーとして連携・協働していく上で、それぞれの役割への理解と信頼関係の構築が欠かせない。また、固定化し不足傾向にある活動支援員・ボランティアを増やすための工夫や学校運営協議会との一体的推進に向けた取組も進めなければならない。研修会や活動の視察を通して、各本部の活動や推進員等と学校（学校運営協議会等）の実態を把握するとともに、地域と学校の意識をさらに高め、活動を活性化させたい。今後は、学校運営協議会には生涯学習課の職員も参加し、地域学校協働活動と学校運営協議会の一体的推進の一助としたい。</p>

基本施策9 社会教育に取り組む市民や団体との協働と支援

（生涯学習課）

目標

市民団体等の育成・支援を図り生涯学習の輪を広げることにより、活力ある地域社会を形成します。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
基本	諸学級事業	<p>●同世代あるいは世代の垣根を越えた仲間たちが、地域社会や家庭に根差した、継続的な生涯学習活動を行う機会を提供する。</p> <p>◆実績 活動学級数 19学級 新規学級数 1学級</p>	498

		<p>(内訳)</p> <p>・学級数 幼児1 女性5 成人8 高齢者2 チャレンジ3 (R5 幼児1 女性5 成人10 高齢者2 チャレンジ4)</p> <p>生涯学習活動を行う各諸学級に対して補助金を交付し、活動の支援を行った。</p> <p>▲事業としては終了し、公民館事業など既存事業との連携を図る。</p>	
基本	子どもフェスティバル	<p>●気軽に楽しめるレクリエーションなどを通して、親子のふれあいや参加者相互の親睦を図る。また、市民がボランティアスタッフとして参画することでボランティア精神の醸成を図る。</p> <p>◆実績 参加団体数 18 団体 参加者数 2,600 人 (R5 1,700 人)</p> <p>屋内外にブースを設け、ゴールデンウィーク中(4月29日)に開催した。</p> <p>▲事業としては終了し、地域や民間の行事への参画支援を通じて交流の機会を確保する。</p>	1,000

評価

<p>諸学級事業は各世代や立場に応じた学びの場を対象とし、地域における自主的な学級運営を支援してきた。子どもフェスティバルは、幅広い交流の機会として一定の成果を上げた。それぞれ特色ある取組であったが、少子化や担い手不足による団体数の減少、目的の重複や役割の類似がみられる地域・民間事業も存在することから、行政の直接支援の在り方を見直すこととした。</p>	B
---	----------

課題と方向性

<p>諸学級事業および子どもフェスティバルについては見直し、今後は行政が実施主体となるのではなく、市民や団体の自主的な社会教育活動を尊重し、その活動を後方支援する役割へと転換する。具体的には、公民館事業や出前講座、市民独自の活動等との連携を図り、マッチング支援や協働事業の立案支援等を行うことで、分野や世代を問わず多様な学びの実践を支える環境整備を進める。</p>
--

《幅広い世代が楽しめる文化・芸術の振興と担い手の育成》

基本施策 10 (重点) 文化財の保護・活用

(生涯学習課)

目 標

文化財を総合的に保護・活用するための基本構想を策定し、保護と活用の一体的な取組を進めていきます。

また、文化財と関わることで、地域への理解や愛着を深め、交流や連携を推進する契機となるような取組を実施します。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
基本	文化財の保護・活用事業	<p>●文化財の調査を行い、重要なものは指定・保護して後世に伝えるとともに、公開活用を促進し、笠岡市の文化及び魅力と活力の向上を図る。</p> <p>◆実績 文化財保護・調査件数 47件 文化財普及・活用件数 73件</p> <p>【主な事業】</p> <p>○歴史文化を守り、育て、伝える 文化財指定等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国重要文化財 小野竹喬筆「波切村」 指定 ・国史跡「津雲貝塚」 1筆追加指定 <p>笠岡市文化財保護事業補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清水氏庭園石垣修理事業 ・諏訪神社のクスノキ保存剪定事業 ・神護寺本堂防災設備整備事業 <p>笠岡市重要無形民俗文化財保存事業補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国、県、市指定文化財 合計7件に補助 <p>文化財施設の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬業館, 関戸廃寺, 長福寺裏山古墳群 ・遍照寺多宝塔 <p>埋蔵文化財の発掘調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍛冶屋遺跡確認調査 <p>○歴史文化を効果的に活かす</p> <p>文化財の公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国登録記念物 清水氏庭園一般公開 年2回 ・文化財説明板設置 持宝院の梵鐘, 悲眼院跡 	9,097

		<p>歴史講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津雲貝塚追加指定記念講演会 12/7 参加者数 90 人 ・茅原基治顕彰講演会 1/25 参加者数 70 人 <p>郷土館、井笠鉄道記念館における情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土館企画展「木山捷平の詩あれこれ」 ・郷土館入館者数 519 人 (R5 726 人) ・井笠鉄道記念館入館者数 2,973 人 (R5 3,180 人) <p>日本遺産「石の島」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒・教員の研修、現地見学 全 5 回 参加者数 147 人 <p>○歴史文化を守り、育み、活かすための基盤をつくる</p> <p>実績 白石踊練習会参加者数 のべ 328 人 白石踊伝承コンテンツ開発数 1 件</p> <p>白石踊後継者育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期練習会 10 回開催 ・出前講座 2 回、鑑賞体験ツアー1 回 ・イベント参加 9 回、高校への出前講座 2 回 <p>▲文化財調査を継続するとともに、その成果を保護施策に反映させる。また活用事業として地域のことを知る機会を提供し、郷土への愛着と誇りを涵養する。</p>	
基本	笠岡ふるさと再発見事業	<ul style="list-style-type: none"> ●若い世代に笠岡の歴史・文化に触れる機会を提供することにより、笠岡の魅力を再発見してもらい、郷土への愛着を涵養する。 ◆「笠岡へもっと愛着を持ち隊」 <ul style="list-style-type: none"> ・「文化財めぐりハンドブック」(改訂版) 小学 1 年生に配布 312 冊 ・文化財等レポートの募集 募集期間 7/20~10/31 提出レポート数 42 点 (R5 65 点) ・優秀作品の展示 笠岡市立図書館 1/28~2/6 ▲近年は「小学生と保護者の参加」を促すことが難しくなってきた。そのため今後は、個人から学校への情報提供にシフトし、授業等で活用できる文化財マップ(電子版)等の新しいコンテンツを検討していきたい。 	141

評価

文化財の調査・指定、整備を少しずつでも進めていくことで、将来に向けた保全や活用の基礎を整えることができた。また文化財保護・活用事業を促進することにより、文化財に関心を持つ人を増やすとともに、郷土の歴史への理解を深めることができた。

A

課題と方向性

- ・笠岡市にとって重要な文化財については、引き続き保存・継承を図る。また、文化財の調査を継続し、個々の文化財の歴史的な価値を明確化していく。事業計画については文化財の価値、事業の効果と緊急性、所有者の意向などをふまえて優先順位を決定し、着実に実施する。
- ・「笠岡へもっと愛着を持ち隊」は、小学生と保護者世代に笠岡市の歴史文化と接する機会を提供する目的で平成27年度から実施してきたが、近年では小学生と保護者の参加を促すことが難しくなってきた。そのため今後は、学校への情報提供にシフトし、授業等で活用できる文化財マップ（電子版）等の新しいコンテンツを検討していきたい。

基本施策 1 1 竹喬美術館の活性化と館蔵品の充実

（生涯学習課）

目標

美術館設立の趣旨を基本に、市民のニーズを踏まえた魅力的で多様な企画展の開催や環境づくりにより、市民が何度でも訪れたい場所へと変革していきます。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
基本	展覧会事業	<p>●市民が見る、知る、体験する場と機会を得られるようにし、文化の向上を図る。</p> <p>◆実績 入館者数 16,741人 (R5 5,882人) ワークショップ開催回数 10回</p> <p>○テーマ展「国画創作協会の画家たち」 ○特別展「芸術の都(パリ)に集った巨匠たちー20世紀フランス絵画 服部コレクションー」 ○テーマ展「没後20年 金谷朱尾子」 ○特別展「日本画家 入江西一郎のどうぶつ画」 ○テーマ展「竹喬美術館ゆかりの画家たち 第一期」</p> <p>▲竹喬研究を主軸としながら、若い世代にも興味を持ってもらえるような展覧会を企画する。</p>	24,455

基本	各種イベント開催事業	<p>●美術館に親しみ、絵画に興味を惹かれるような機会を作る。</p> <p>◆実績 イベント開催回数 31回 イベント参加者数 764人</p> <p>地域学と連携した美術館訪問，出前授業（継続）</p> <p>○子ども対象のワークショップ「竹喬さんとあそぼう」開催（継続）</p> <p>○子ども絵画教室開催（継続）</p> <p>○ワークショップ「日本画画材で模様を描いてアライグマを作ろう！」開催（継続）</p> <p>○学童保育対象ワークショップ「オリジナル屏風作り」（継続）</p> <p>○竹喬茶会（竹喬生誕祭）</p> <p>○各展覧会におけるギャラリートーク開催（継続）</p> <p>▲多世代が美術館に足を運びたくなるよう、切り口を変えた様々なイベントを企画する。</p>	407
----	------------	--	-----

評価

令和6年度は、特別展「芸術の都(パリ)に集った巨匠たちー20世紀フランス絵画 服部コレクションー」を開催し、20世紀を代表する画家に加え、戦後のパリ画壇に登場した画家たちの60点の作品を紹介した。協賛金を活用して、テレビコマーシャルを流し、2社の新聞社と共催し、新しい広報手段としてフリーペーパーやSNS広告を打つなどして記録的な来館者数となった。本展はアンケートの集計結果において、大変満足と満足を合わせて88.6%の高い満足度となった。

また、特別展「日本画家 入江西一郎のどうぶつ画」では、人々の心に和みを与える西一郎の世界を紹介した。助成金を活用して、現在把握できる全作品を掲載した図録を出版し周知を進めた結果、複数の西一郎の代表作が美術館に収蔵された。本展もアンケートの集計結果において、大変満足と満足を合わせて90.1%の高い満足度となった。

テーマ展「没後20年 金谷朱尾子」では、展覧会を通して笠岡ゆかりの画家としての新たな情報が得られると同時に、来館者に朱尾子作品の魅力伝える事ができた。また、テーマ展「竹喬美術館ゆかりの画家たち」第一期では、竹喬の師である竹内栖鳳らの世代と笠岡出身の上島鳳山などの作品を比較することで、竹喬芸術をより客観的に評価する視座を提供できた。

関連イベントとして、体験型謎解き鑑賞会、対話型鑑賞会、イベント型夜間開館、託児サービスデー、ギャラリートークなどを実施し、多数の家族連れが訪れ、多世代が来館できる企画となった。

若者層へのアプローチとして、小・中学校への竹喬の版画作品の展示を継続し、放課後児童クラブ出前講座や中学・高校生対象のプロの画家による絵画教室などに取り組んだ。

A

課題と方向性

入館者の年齢層の偏りがあり 50 代以上が全体の約 8 割を占めており、若者層へのアプローチは依然として課題である。しかし、令和 6 年度の特別展では、40 代までの年齢層が増加傾向にあり、特に 10 代以下の入館者が増加している。そのため、竹喬美術館の使命である小野竹喬の顕彰及び竹喬周辺の展覧会と並行して、幅広い世代が魅力を感じる展覧会や企画を引き続き進めていく。

さらに恒常的な課題として収蔵スペースの確保がある。美術館の役割である作品の保存と研究、資料の整理とデジタル情報化において避けては通れないため、中・長期的な整備計画を進める。

基本施策 1 2 芸術文化活動の振興・交流と担い手の育成

(生涯学習課)

目標

市民参加による幅広い自主的な創作活動を促進し、若者の視点も踏まえて、優れた文化・芸術にふれあう機会を増やします。また、文化向上の拠点整備に努めます。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和 6 年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
基本	文化事業の充実	<p>●芸術・文化活動の活性化によって知性と文化意識の高揚を図り、長期的な視点で文化的風土を育む。</p> <p>◆実績 文化事業参加者総数 6,805 人</p> <p>夏休みこども体験教室開講教室数 10 教室 (内訳) デジタルカメラ写真教室, 生け花体験教室, 習字を勉強しましょう教室, 和太鼓こども教室, 川柳教室, 夏休みの習字の宿題をがんばろう! 教室, パレエ教室, 箏体験教室, クレヨン・クレパス・水彩画教室, 吹奏楽を体験してみよう!</p> <p>笠岡市さつき・新緑展 5/24~26 入場者数 338 人 (R5 343 人)</p> <p>夏休み子ども体験教室 7/20, 21, 8/3 参加者数 139 人 (R5 150 人)</p> <p>名月観賞の夕べ 9/28 入場者数 450 人 (R5 505 人)</p> <p>笠岡市菊花展 10/30~11/4 入場者数 599 人 (R5 998 人)</p> <p>笠岡市芸能祭 11/2 入場者数 330 人 (R5 675 人)</p> <p>笠岡市文化祭 11/1~3 入場者数 1,413 人 (R5 1,336 人)</p>	840

		<p>笠岡市児童・生徒美術展 1/18～19 入場者数 2,356 人 (R5 2,338 人)</p> <p>笠岡市美術展 2/21～23 入場者数 1,180 人 (R5 1,350 人)</p> <p>▲一部事業の整理見直しを行い、今後も芸術・文化活動の火を絶やさぬよう創意工夫して事業を実施するとともに、市民に多様な芸術文化に触れる場を提供する。</p>	
基本	能・狂言体験学習	<p>●小、中学生の伝統芸能への関心・理解を深め、豊かな情操を育むとともに、将来の文化活動を担う人づくりを推進する。</p> <p>◆実績</p> <p>①体験コース（2時間×1回） 能：1校（大島中学校） 狂言：3校（城見小学校・大井小学校・新山小学校）</p> <p>②継続発表コース（2時間×7回） 狂言：1校（神島外小学校）</p> <p>▲若い世代の芸術文化への関心・理解を深めるため、伝統芸能に触れる場を提供する。</p>	233
基本	笠岡市木山捷平文学選奨	<p>●笠岡市出身の小説家木山捷平氏の業績を顕彰することで、文芸創作活動の活発化と、文芸創作活動をする市民の増加を図る。</p> <p>◆実績 短編小説応募者総数 244 人 その他5部門の応募者総数 2,904 人</p> <p>第20回木山捷平文学選奨</p> <p>【全国公募】 短編小説 応募作品数 244 編 (R5 267 編)</p> <p>【市民等公募】</p> <p>随筆 応募者数 一般 16 人 (R5 14 人)</p> <p>詩 応募者数 一般 (高校生含む) 117 人 (R5 22 人) 小中学生 1,049 人 (R5 1,232 人)</p> <p>短歌 応募者数 一般 20 人 (R5 14 人) 高校生 6 人 (R5 42 人) 小中学生 372 人 (R5 418 人)</p> <p>俳句 応募者数 一般 19 人 (R5 14 人) 高校生 110 人 (R5 267 人) 小中学生 973 人 (R5 926 人)</p> <p>川柳 応募者数 一般 21 人 (R5 18 人) 高校生 11 人 (R5 32 人)</p>	2,273

		<p>小中学生 190 人 (R5 164 人)</p> <p>▲各部門の募集を継続するとともに、応募者のさらなる増加を図る。</p>	
基本	郷土文学者顕彰事業	<p>●郷土の優れた文学者の業績を顕彰し、文学資料を保存・展示することにより郷土の文学振興に寄与し、ひいては笠岡の魅力を広く発信する。</p> <p>◆実績</p> <p>森田思軒顕彰講演会 (11/9) 参加者数 48 人 (R5 47 人)</p> <p>木山捷平文学選奨 20 周年記念「木山捷平さんの日」講演会 (3/2) 参加者数 85 人</p> <p>▲森田思軒顕彰の機会として講演会を継続するとともに、文学資料の整理及び木山捷平生家の管理も行う。</p>	440
基本	市民会館運営事業	<p>●市民の生活、文化及び教養の向上と福祉の増進を図る。</p> <p>◆笠岡市民会館を管理・運営するとともに、市民会館を利用した自主講座や文化芸術鑑賞に係る事業を一般財団法人笠岡市総合福祉事業団吸江社へ委託。</p> <p>【施設整備関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民会館機械室用途変更に伴う窓ガラス等改修工事 ・市民会館漏水修繕工事 ・市民会館受電設備内舞台照明用変圧器取替工事 (R7 への繰越) <p>▲今後も、年次的に改修工事を行い、長寿命化を図る。</p>	45,535
基本	文化賞揚事業	<p>●笠岡市を代表して文化・芸術部門における中国地区及び全国大会以上に参加・出場した市民に賞揚金を贈呈し、選手を激励する。また、世界大会・全国大会・中国大会成績優秀者に対し、文化特別賞を授与し、その栄誉を称える。(公益財団法人笠岡市文化・スポーツ振興財団事業)</p> <p>◆全国大会出場 5 人 (R5 4 人)</p> <p>中国大会出場 8 人 (R5 4 人)</p> <p>文化特別賞 全国大会 3 位以内 3 人 (R5 1 人)</p> <p>中国大会優勝 1 人 (R5 -人)</p> <p>また、成績に応じて懸垂幕等の掲揚を実施。</p> <p>▲市を挙げて文化・芸術に携わる方を応援し、出場する選手だけでなく、市民の励みになるよう努める。</p>	156

評価

- ・ 入場者数に多少増減はあるものの笠岡市文化祭をはじめとする文化行事を実施し、また小中学校では能・狂言の体験学習により児童・生徒の伝統芸能への関心や理解を深めるなど、市民参加による文化振興事業を実施することができた。
- ・ 第 20 回となった笠岡市木山捷平文学選奨では、全国公募の短編小説は 244 作品（前年△23）、他部門は 2,904 人（前年△259 人）で、短編小説は昨年比微減となり、他部門についても部門毎に多少の増減はあるものの、昨年度に比べ応募者総数は減少した。令和 5 年度から短歌・俳句・川柳部門において、「高校生の部」を設けており、市内高校へ募集要項等を持参し応募の依頼を行ったところ、詩部門も含め 235 人の生徒から作品応募があった。短編小説応募者数は年度により増減はあるが、毎年 200 作品を超えて安定的に作品応募があり、全国に向けて笠岡市出身の作家木山捷平の優れた業績と笠岡市の取り組みを発信することができた。
- ・ 市民会館は、文化向上の拠点としての役割を発揮できるよう管理・運営を行い、自主講座や文化芸術鑑賞行事を開催することにより市民の芸術文化活動への参加機会を提供することができた。また、年度末には水道管の経年劣化による漏水が発覚したが、指定管理者及び関係業者との連携により長期休館に至ることなく修繕工事を行い、利用者への影響は最小限に抑えることができた。

B

課題と方向性

- ・ 芸術文化活動については、文化祭等で新たなジャンルも含め多様な作品発表の場を提供し、子どもから大人まで幅広い世代が活動に参加しやすい環境づくりを行う。また、少子高齢化や情報の多様化など社会情勢の変化に伴い文化活動の担い手の減少や固定化が見られるため、文化連盟等市内の活動団体同士の連携を支援し、新たな担い手の育成を図る。
- ・ 木山捷平文学選奨事業については、文芸創作活動のさらなる活発化を目指し、引き続き SNS での情報発信の強化や、公民館講座等での講座生への PR など幅広い世代へ向けた広報活動等を行い応募者の増加を図る。
- ・ 市民会館については開館から 50 年以上が経過し、老朽化が進み、突発的な修繕が発生している。今後は文化向上の拠点としての役割を果たせるよう、指定管理者との連携を密にしながら施設全体の計画的な改修工事を実施し、長寿命化を図る。

基本施策 13 カブトガニの保護とカブトガニ博物館の運営

(生涯学習課)

目 標

カブトガニが繁殖力を取り戻すまで、カブトガニ保護と人工飼育及び幼生の放流を継続していきます。

また、子どものうちから干潟等の環境保全の重要性とカブトガニ保護の意義を理解してもらうための多様な取組を行うとともに、カブトガニと博物館を活かした笠岡市のPRを行い、様々な機会を利用して全国に情報発信していきます。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
基本	幼生の飼育・放流事業	<p>●笠岡に生息するカブトガニが人の手を借りることなく、自然に繁殖力を取り戻すまで、幼生を飼育し放流を行う。</p> <p>◆実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼生放流回数 1回 人工産卵による第1齢幼生採集数 23,400匹 (R5 3,251匹) ・産卵池水路浚渫及びろ過槽改修(飼育池水路浚渫工事) 4,926千円 <p>カブトガニの幼生の継続的な飼育環境を確保する必要があるため、老朽化したカブトガニ飼育棟を改修する。</p> <p>▲引き続き、飼育池・飼育水槽の改修を行い、飼育環境の向上に努め、今後も幼生を飼育し、放流できる数を増やしていく。</p>	8,782
基本	繁殖地内での啓発運動・監視活動・各種調査	<p>●繁殖地内での産卵・幼生・成体調査を定期的実施し、カブトガニの生息状況を確認する。カブトガニの生息環境を良好に保つため、繁殖地の保護を行う。</p> <p>◆実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護啓発運動参加者数 0人 雨天により中止 (R5 281人) 保護監視活動回数 44回 4月～11月 44日実施, 入浜者数37人 (R5 46日実施, 入浜者数26人) 幼生調査153匹確認 (R5 150匹) 成体調査75匹確認 (R5 31匹) 繁殖地内での自然産卵確認4カ所 (R5 0カ所) <p>▲保護啓発だけでなく、繁殖地の保護につながる様々な啓蒙</p>	4,441

		活動を展開し、カブトガニ保護に対する意識の向上を図る。繁殖地の現状把握に向けて、調査エリアの拡大を行い、新たな産卵場所や幼生の生育場所の有無を調べるなど、より詳細なデータの把握に努める。	
基本	特別展, 特別陳列の開催	<p>●自然とカブトガニについて学ぶ機会を提供する。</p> <p>◆実績 来館者数 61,131人 (R5 59,386人) 自然観察イベント回数 5回</p> <p>・特別展示「真・蠶」展 令和6年7月20日～9月29日 期間中入館者 17,577人</p> <p>・特別陳列「八百万のカブトガニ」展 令和7年2月1日～3月31日 期間中入館者 11,316人</p> <p>▲今後もより多くの方の興味を引き、集客につながる魅力的な企画展を開催する。</p>	2,463
基本	博物館のPR	<p>●SNSの情報発信ツールを積極的に活用して、博物館の魅力を広く発信する。</p> <p>◆実績 Facebook 投稿投稿回数 5回 X (旧 twitter) 投稿数 221 X (旧 twitter) 令和4年12月開始 フォロワー8,721名 (令和7年3月末)</p> <p>▲引き続き、カブトガニ博物館の周知度向上につながる情報を発信し、集客につなげる。</p>	43

評価

<p>カブトガニ繁殖地内におけるカブトガニの捕獲数は、これまでの取組の結果、令和6年度においては75匹となり、35年ぶりの高水準となった。引き続き、自然環境保全の取組を推進するとともに、幼生の飼育と放流を行っていく。企画展のうち、特別展示では、より深遠でマニアックなカブトガニの生態や特徴を紹介する展示を行い、カブトガニへの興味関心を喚起した。特別陳列では古今東西に数多あるカブトガニに関係するグッズを展示し、世にあふれるカブトガニの魅力に満ちたグッズを紹介し、カブトガニが笠岡市のシンボルであり市民の身近な存在であるという気づき、きっかけを与えた。</p> <p>また、令和2年度から国庫補助金を受けて取り組んでいるカブトガニ飼育施設改修事業の一環として、飼育池水路浚渫工事や、ろ過槽ろ過材入替工事を行い、人工飼育のための環境整備を行うとともに、来館者の満足度を高めるため、展示物のカブトガニ回転卵装置の修繕、シアターのプロジェクター修繕など施設の保守管理を実施した。</p>	A
---	----------

課題と方向性

カブトガニ博物館には、これまでの役割に加え、調査・研究の充実、情報発信及び観光振興への貢献等の期待が高まっており、新たな運営の工夫が必要となっている。

カブトガニ博物館では、「カブトガニ博物館未来ビジョン」に基づき、SNSの情報発信ツールも積極的に活用して、博物館の魅力を広く発信し、入館者増加を図っていくとともに、出前講座や保護啓発運動を進めていく。

また、新規事業として、カブトガニへの餌やり、幼生観察などの体験型プログラムとカブトガニに関する座学を経た後に、家庭でカブトガニの飼育を行うという内容の「カブトガニマイスター養成講座」を実施していく。これにより、市民の保護意識と当事者意識の向上による保護活動のすそ野の拡大を目指す。あわせて、講座で得られる体験を通して、子どもたちの好奇心や探究心を育む。

《誰でも気軽に親しめる生涯スポーツの振興》

基本施策 14 生涯スポーツの推進

(スポーツ推進課)

目 標

心身の健康増進と生活の質の向上を図り、Well-beingを高めるため、年齢、性別、障がいの有無等に関わらず、誰もが気軽に楽しめるスポーツを推進します。また、SNSなどを積極的に利用して広く情報発信を行うとともに、提供する情報内容の充実を図ります。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
基本	地域スポーツ活動事業	<p>●誰でもスポーツが楽しめるまちを目指して、市民にスポーツの実技を指導し、スポーツ活動の盛んな地域コミュニティを醸成する。</p> <p>◆スポーツ推進委員を派遣し、地域のニーズに合わせた指導を行った。(派遣回数：R6年度69回延べ207名、R5年度51回延べ205名)</p> <p>▲地域の公民館にPRする等、スポーツを気軽に楽しんでもらう機会や対象団体を増やす。</p>	1,644
基本	スポーツ情報提供事業	<p>●イベント情報やスポーツ団体を紹介することで、スポーツに関わる人口の増加を図る。</p> <p>◆ホームページや広報などを活用し、スポーツ情報の提供に努めた。また、「笠岡市のスポーツ」や「スポーツカレンダー」といった情報誌を発行し情報発信を行った。</p> <p>▲笠岡市公式LINEシステム、Instagram、ホームページなどのSNS媒体を使用し、市民だけでなく、より多くの人に笠岡のスポーツ情報を発信していく。</p>	33

評 価

- ・スポーツ推進員を地域へ派遣し、ポッチャなどニュースポーツを推進することで楽しさが認識されてきて、ニュースポーツ大会も3回開催した。これらの大会は、障がい者の参加があり、障がい者がスポーツを楽しむとともに、参加者との交流を深めることができた。また、スポーツ推進委員の企画会議を2か月に1回行い、会議終了後にポッチャ、モルツクなどの実技研修会を行い競技についての理解を深めることができた。
- ・「笠岡市のスポーツ」を年1回、「スポーツカレンダー」を年4回作成した。ホームページ及びInstagramだけでなく、笠岡市公式LINEシステムへもスポーツ情報の提供を行った。今後は、イベント情報だけでなく、スポーツ少年団の団員募集などの情報について

A

も、積極的に情報発信を行う。

課題と方向性

- ・スポーツ推進委員の活動においては、担い手不足が課題となっている。今後は、SNS等のデジタル媒体を活用した広報の強化を図るとともに、担い手の育成を目的とした研修を充実させ、活動の充実を図る。
- ・笠岡市公式LINEシステム、インスタグラム等、SNSを使った情報発信も積極的に行うだけでなく、地元ケーブルテレビやFMラジオへ出演し告知することで広く市民に情報を提供する。

基本施策15 (重点) 競技スポーツの推進

(スポーツ推進課)

目標

各種スポーツ大会を開催することにより、スポーツレベルの向上と競技人口の増加を図ります。また、プロスポーツの大会等を誘致し開催することで、トップアスリートの競技を観て学べるよう、観戦機会の拡大に努めます。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
重点	プロスポーツ団体 連携協定事業	<p>●トップアスリートを招致・支援することにより、市民に夢と感動を与えるとともに、競技レベルの向上と競技人口の拡大を図る。</p> <p>◆岡山シーガルズと連携協定を締結し、公式戦の開催だけでなく、市のイベント等へゲスト参加してもらうことで、チームとの距離を縮め、市民がスポーツに関心を持つことに寄与した。</p> <p>シーガルズの公式戦 2試合 (12/7・8)</p> <p>市主催のイベント等への参加 5回</p> <p>▲事業見直しの対象となり、協定に基づく委託料は削減されたが、連携協定は継続し、引き続き公式戦開催を支援する。</p>	3,000
基本	スポーツ賞揚事業	<p>●激励会の開催や、スポーツ賞揚金の贈呈により、出場選手を激励し、競技レベルの向上を図る。</p> <p>(公益財団法人笠岡市文化・スポーツ振興財団事業)</p> <p>◆賞揚内訳：世界大会4件、全国大会72件、中国大会45件 (前年度世界大会2件、全国大会73件、中国大会46件)。</p> <p>スポーツ協会においては、令和6年度の実績等をもとに、功労賞2名、奨励賞3名優秀個人賞73名、優秀団体賞5</p>	2,848

		<p>団体，優秀選手特別賞 4 名（前年度特別功労賞 1 名，奨励賞 3 名，優秀個人賞 70 名，優秀団体賞 4 団体，優秀選手特別賞 6 名，優秀団体特別賞 4 団体，優秀監督特別賞 0 名）を選出し，賞揚した。（記念品として盾を贈呈）</p> <p>▲引続き激励会を開催するなど，出場選手を支援する。</p>	
基本	市民スポーツ振興事業	<p>●スポーツ人口の増加と，競技スポーツの強化を図る。</p> <p>◆市スポーツ協会の委託事業として，マラソン大会を開催するなど，さまざまなスポーツ活動等に取り組んだ。</p> <p>▲事業見直しに伴い，カブトガニ駅伝大会については，開催場所等を見直して実施する。</p>	5,299
基本	スポーツ教室事業	<p>●生涯にわたり，健康や体力を保持していくことができるよう，子どもたちにスポーツの楽しさを伝える。ゴールデンエイジに運動に親しむ子どもを増やす。</p> <p>◆幼児スポーツ教室（R6 年度 61 名・R5 年度 47 名）・バスケットボール教室（R6 年度 41 名，R5 年度 51 名）・陸上教室（R6 年度 41 名，R5 年度 28 名）・軟式野球教室（R6 年度 20 名，R5 年度 24 名）・サッカー教室（R6 年度 19 名，R5 年度 15 名）・ソフトテニス教室（R6 年度 20 名，R5 年度 17 名）・レスリング・マット運動教室（R6 年度 12 名，R5 年度 13 名）を実施した。</p> <p>▲引き続き教室を開催し，子どもたちのスポーツへの関心を高める。</p>	729

評価

<ul style="list-style-type: none"> ・岡山シーガルズとの連携協定に基づく取組として，公式戦の開催だけでなく，バレーボール教室やイベントへの参加など市民と触れ合える機会を提供した。（イベント回数 6 回） ・激励会を開催し，中国大会以上の試合に出場する選手を賞揚した。 ・スポーツ教室は予定していた全ての教室を開催した。 	A
---	---

課題と方向性

<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き公式戦の開催や，トップアスリートと触れ合える機会を提供する。 ・スポーツ賞揚事業については，さまざまな競技で競技力向上を目指すアスリートを応援するため継続する。 ・関係団体と連携を密にし，指導者の養成，大会の開催等に取り組む，競技スポーツの推進を図る。 ・児童数の減少により，教室の参加人数の確保が課題である。

基本施策 16 スポーツ施設の整備・充実と活用

(スポーツ推進課)

目 標

総合的かつ計画的な施設整備を進め、既存施設の充実・活用を図って利用しやすい環境を整えます。また、経年劣化部分を修繕することにより、施設の長寿命化を図ります。

施策を推進する主な事業

区分	事業名	●目的／◆令和6年度の主な実績／▲今後の方向性	決算額 (千円)
基本	笠岡運動公園 25m プール修繕	●施設の経年劣化部分を定期的に修繕することで、施設の長寿命化を図る。 ◆笠岡運動公園 25m プール点検及び応急修繕を行った。 ▲施設の適正管理に努める。	619

評 価

・稼働開始から長年経過し、老朽化が著しい施設が多く、早期の改修が必要な施設がある。

B

課題と方向性

・利用者の利便性・安全性確保のためにも、十分な予算確保が必要である。

Ⅲ 評価委員の総合評価

今 井 航 委 員

「笠岡市教育行政における事務の管理及び執行状況」では、とくに定例会での協議のほかには教育長を含む教育委員全員で、今日的・緊急的課題が、非公式協議や意見交換などにより随時行われていたり、あるいは教育委員による学校・教育施設への訪問が昨年度よりも多めに行われ、とりわけ島しょ部の学校園での児童園児の様子・環境を実際に見て、その現状を把握できたりしていることが評価される。他方で、地教行法第1条の4により設けられている総合教育会議のことは、その項目立てをして記述するくらいがよいと考える。

「「学び」「育ち」をつなぎ自立して共に生きる子どもを育てる学校教育の推進」では、とりわけ中学1年生の長期欠席や不登校の数が大きく見れば、減少傾向にあることが注目される。いわゆる「中1ギャップ」の問題を解消していくのに進められる小中一貫教育に取り組む中で、こうした成果の見えることが評価される。今後の「笠岡市長期欠席・不登校総合対策」の展開を、注視したい。また、栄養教諭が小・中学校の全学級を年間1回以上は訪問し、給食の状況を把握すると同時に、食に関する指導や関係の情報提供などが行われていることも評価される。

「市民一人ひとりの豊かな学びにより地域力を高める生涯学習の推進」では、とりわけ図書館への来館者数や図書の貸出者数が増加していたり、あるいは陸地部と島しょ部の巡回業務を毎月1回行うことで、図書館から遠く来館が難しい市民の便に供したりしていることが評価される。また、地域学校協働活動においては、実施日数・参加者数・ボランティア数などの減少が見られたとは言え、地域住民の参画による学校教育への支援や子どもの学習や体験活動を提供する支援の各体制が構築され、成果を上げているとも見られる。学校運営協議会との一体的な推進を図っていくとあり、今後の展開が期待される。

「幅広い世代が楽しめる文化・芸術の振興と担い手の育成」では、その文化財の保護・活用が着実に進められていることや、笠岡市文化祭をはじめとする多彩な文化的行事が実施されたり、小中学校における能・狂言の体験学習の機会が設けられたり、笠岡市出身の作家である木山捷平を冠する文学選奨が行われたりして特に今後の、その担い手の育成に取り組んでいることが評価される。他方で、そのカブトガニの捕獲数が75匹となり35年ぶりの高水準となったことが注目される。これは、他にはない笠岡市の教育における独自の教材となり得るであろうし、前の「基本施策3 郷土愛の育成」との関連で検討するのがよいと考える。

「誰でも気軽に親しめる生涯スポーツの振興」では、スポーツ推進委員の担い手不足が問題になっているとは言え、地域スポーツも競技スポーツも、その推進に努めていることが評価される。関係の情報の中身の充実を図り、ひろく情報発信をしていくことで、さらなる振興が期待される。

三 谷 信 恵 委 員

「令和6年度 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書」より、担当部署からの説明を受けました。教育長のリーダーシップにより、今後の方針が明確化され、笠岡市の財政状況によりさまざまな事業が廃止や変更を余儀なくされるなかで、児童生徒、市民に対してきめ細やかな対応が迅速に行われました。前年度の取組をもとに継続して進めているということですが、よりクリエイティブなアイデアを期待します。

そのためには、職員が自由闊達に意見の言える風通しの良い職場を創ることが重要だと考えます。

事務の管理及び各事業の執行状況は適正に評価されており、総合的に見て、目標は「概ね達成された」と判断します。

以下、報告書に関して感じたことを述べさせていただきます。

1 教育委員会の運営状況、教育委員会が管理・執行する事務

学校・教育施設訪問が、小学校3校、中学校1校、幼稚園1園では少ないと感じました。「教育委員は、オープンスクールに参加しているから普段の様子は見ている」とのお答えでしたが、教育委員が注視しなくてはいけないことは多岐に亘っており、オープンスクールでは十分な把握とはなりません。管理職の生の声を聞く機会を増やしていただくよう要望します。(以前は年3回実施していました)

市長と教育委員会は円滑に意思疎通が図られているようです。今後も市長部局と情報共有しながら教育委員会主導の施策を展開してください。

2 《学び」「育ち」をつなぎ自立して共に生きる子どもを育てる学校教育の推進》

さまざまな支援を必要とする児童生徒がいます。適切な学習環境や居場所が多数あることは、保護者に安心感を与えます。今後も多様化する課題に関係機関と連携して取り組んでいただきたい。

小中一貫教育において、教職員の合同研修や乗り入れ授業の充実により、教職員にも児童生徒にも良い効果が出てきているとの説明に、これまでの地道なご努力の賜物と感謝申し上げます。

近年、教育委員会が発信する学校規模適正化に市民は振り回されているように感じます。地域に出向かれて説明はしっかりされているようですが、備忘録としてこの点検・評価報告書には今後も経過等記載していくように要望します。

3 《市民一人ひとりの豊かな学びにより地域力を高める生涯学習の推進》

公民館、図書館運営に関して、市民のニーズに応じた講座や事業の充実が認められた成果が表れているように感じます。官公庁オークション等も新鮮なアイデアだと思います。柔軟な発想でユニークな企画を期待します。

全ての事業項目に当てはまることですが、地域の方、市職員の負担を考慮して類似した事業があれば廃止や見直しも検討していただきたい。

4 《幅広い世代が楽しめる文化・芸術の振興と担い手の育成》

竹喬美術館，カブトガニ博物館とも A 評価。仕事に対する充実感，達成感を感じます。今後も来館者の方に何度も足を運んでいただけるよう，笠岡市の発展のためにも集客に努めていただきたい。

5 《誰でも気軽に親しめる生涯スポーツの振興》

老朽化が著しい施設が多いとのことですが，施設利用者が安全に使用できるよう，予算の確保に努めていただきたい。

「スポーツ推進基本計画後期計画」に関連した記述がないのは残念に思います。

基本方針の言葉どおり，誰でも気軽にスポーツを楽しめるよう情報を発信して，健康で笑顔あふれる笠岡をスポーツの力で実現していただきたい。

藤井厚男 委員

「令和6年度 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書」について、教育委員会各担当部署から丁寧な説明を受けた、

全体的には各施策を推進する事業は基本理念に基づいて計画的に取り組まれており、一定の成果をあげていると考えられる。また、点検・評価についても適切に行われていた。このことから、総合評価として、目標は「概ね達成された」と判断した。

以下、点検・評価報告書の内容及び説明・質疑から感じたことを、項目を抜粋して述べさせていただきます。

1 教育委員会の運営状況，教育委員会が管理・執行する事務について

教育委員との協議は定例及び臨時の会議において適時適切に行われていた。また、定例会後の時間を活用して各施策や学校園の現状及び課題等について、情報共有を図り意見交換等を行っている旨の報告があった。

今後も学校規模の適正化計画の対象校の児童や地域住民の思いなどについて適切に情報を共有し、現場に寄り添いながら施策を進めていくよう努めていただきたい。

2 「学び」「育ち」をつなぎ自立して共に生きる子どもを育てる学校教育の推進について

○基本施策1（1）自ら学びに向かい、課題を解決する力を育成するための教育活動の充実

昨年度の総合評価でも指摘があったが、主な事業の内容は小規模校を対象にした事業であり、施策の目標に対する市全体の点検・評価が分かりにくいものになっている。

「自己肯定感・自己有用感の醸成及び人間関係づくり」、「学習に主体的に取り組む意欲や学んだことを活かそうとする態度の育成」は、学校教育の根幹をなすもので、当然、現在全校園において取り組んでいることであり、今後も重要な取組とすべきものである。

これについては、次期教育振興基本計画の策定時に、事業項目との整合性等を整理し、点検・評価の結果がより分かりやすいものになるようにしていただきたい。

○基本施策1（2）確かな学力を身に付けるための教育内容・方法の充実

授業等におけるICTの活用のために、ICT支援員配置事業を行っているが、課題として活用率が低いことがあげられている。費用対効果の面からも、改善していくことが求められるが、評価の指標を児童生徒だけでなく、指導する側（教員）のものも取り入れながら、活用のあり方等の改善の方向性を検討していくことが必要と考える。

○基本施策2（1）豊かな人間性を育む教育の充実

小中一貫教育の具体的なメリットの一つとして、「中1ギャップの解消」があげられるが、令和5年度から本格実施している中で、中学校1年生の不登校生徒の出現率に大きな改善が見られるとのことであった。中学校教員の小学校への乗り入れ授業や中学校ブロックにおける教員の合同研修等の取組による成果と考えられる。これからもそれぞれのブロックの実態等に応じて、地道で継続的な取り組みを進め、確実な成果が上げられることを期待したい。

また、生徒指導全般にわたって重要視している「未然防止，早期対応，組織的対応，先手を打つ対応」は、長期的な視点において極めて有用なことであり、今後も学校と認識を共有し

ながら具体的な対応が進められることを期待する。

○基本施策2（2）健康教育の充実と食育の推進

学校給食センターの栄養教諭が、市内小・中学校の全ての学級を訪問して、専門職として児童生徒に直接食育に関する指導を行っていることは特筆すべきことと考える。献立作成や調理全般に関わる栄養教諭が、児童生徒が毎日接する学校給食を題材に健全な食生活や望ましい食習慣等について、市内の全ての児童生徒に指導するすることの意義は大きく、これからも積極的に展開してもらいたい取組である。

○基本施策2（3）学校体育、スポーツ活動の充実

中学校部活動の地域移行については、これからの学校の役割や教員の働き方を考えていく上で非常に重要な事柄であると考え。地域移行を進める場合、受け皿となる団体や指導者の確保等多数の問題点があることは理解するが、関係者で粘り強く協議をして行く中で、これからの部活動のあり方について方向性を明らかにしていくよう強く期待する。

3 市民一人ひとりの豊かな学びにより地域力を高める生涯学習の推進について

生涯学習フェスティバルにおいて、小学生の探究学習の成果の発表の機会を設けるなど新たな取組が進められている。子どもたちにとって総合的な学習の時間など教科学習以外の時間に自分たちの興味や関心に応じて地域の特色を生かした学習を主体的、計画的に進めることは、現在求められている学力観とも合致しており、大切にしてほしい取組である。

引き続き、子どもたちの探究学習の一つのゴール（発表）の場として、生涯学習フェスティバル等を有効に活用できるよう学校と地区公民館などがしっかり連携して進めてほしい。

中央公民館で令和6年10月から中高生等を対象にして、空室を学習スペースとして開放していることは、今後の施設としての役割、あり方を考える上で有意義なことと考える。公民館等を身近に感じることで将来的な地域活動への参加意識の醸成にもつながり、引き続き取り組みを進めてもらいたい。

4 幅広い世代が楽しめる文化・芸術の振興と担い手の育成について

小学生から幅広い世代を対象に事業を展開し、内容についても入門期から専門性の高いものまで、新たな内容も取り入れながら地道に各事業に取り組んでいる様子がうかがえる。長期的な視点をもって引き続き、施策を推進してもらいたい。

竹喬美術館、カブトガニ博物館は、本市の文化・芸術の振興のシンボリックな存在である。竹喬美術館においては、特別展「芸術の都（パリ）に集った巨匠たち」を開催し、多くの来館者を記録したが、引き続き魅力ある企画展、イベント等を開催し、固定的なファンとともに新たな来館者が増えていくよう期待する。

カブトガニ博物館は、繁殖地内の捕獲数が35年ぶりの高水準になるなど、これまでのカブトガニの保護と調査活動等において成果が上がっている。また、SNSを活用してカブトガニ博物館のPRにも積極的に取り組んでおり、引き続き笠岡市のシンボルを全国の多くの人に認知してもらえよう鋭意取り組みを進めてもらいたい。

5 誰でも気軽に親しめる生涯スポーツの振興について

ニュースポーツを中心として、地域の活動と連携しながら、幅広い世代がスポーツに親しみ楽しむ活動に地道に取り組んでいることは高く評価できることである。特に子どもたちを対象にしたスポーツ教室を開催して継続的に一定の参加者を集めていることは、少子化の中で意義あることであり、今後も是非継続していただきたい。

現在、財政健全化プランを実施している中ではあるが、岡山シーガルズ等トップアスリートの競技を観戦することは、市民をはじめ子どもたちに夢や感動を与えて、スポーツの裾野を広げるとともに、生涯スポーツの推進につながることを考えており、引き続き招致事業、連携事業に取り組んでもらいたい。

IV 資料

令和6年度 教育関係決算総括表

歳入

(単位：千円)

款	R 6年度 決算額A	R 5年度 決算額B	比較	
			額 (A - B)	率 (%)
13 分担金及び負担金	1,052	1,076	△ 24	△ 2.2
14 使用料及び手数料	52,037	43,893	8,144	18.6
15 国庫支出金	111,861	101,164	10,697	10.6
16 県支出金	76,849	67,782	9,067	13.4
17 財産収入	79	77	2	2.6
18 寄附金	14,549	21,399	△ 6,850	△ 32.0
19 繰入金	120,496	126,261	△ 5,765	△ 4.6
21 諸収入	45,780	35,555	10,225	28.8
22 市債	36,600	162,700	△ 126,100	△ 77.5
一般財源	1,905,695	2,225,053	△ 319,358	△ 14.4
合計	2,364,998	2,784,960	△ 419,962	△ 15.1

歳出

(単位：千円)

款・項	R 6年度 決算額A	R 5年度 決算額B	比較	
			額 (A - B)	率 (%)
01 教育費・教育総務費	282,299	595,158	△ 312,859	△ 52.6
02 教育費・小学校費	444,478	380,379	64,099	16.9
03 教育費・中学校費	295,737	255,761	39,976	15.6
04 教育費・幼稚園費	191,550	296,528	△ 104,978	△ 35.4
05 教育費・社会教育費	612,481	682,207	△ 69,726	△ 10.2
06 教育費・保健体育費	538,453	574,927	△ 36,474	△ 6.3
教育関係合計	2,364,998	2,784,960	△ 419,962	△ 15.1

◎ 小学校児童に係る経費の調べ

科目		R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額	対前年比率	備考	
主な経費	児童報償費	決算(千円)	173	164	174	170	160	162	101.3	卒業記念
		1人当たり(円)	459	470	466	493	486	481	99.0	
	消耗品費	決算(千円)	31,047	47,678	30,559	26,993	36,769	59,540	161.9	
		1人当たり(円)	14,679	23,122	15,151	14,008	19,811	32,859	165.9	
	燃料費	決算(千円)	944	873	1,024	856	687	684	99.6	
		1人当たり(円)	446	423	508	444	370	377	101.9	
	光熱水費	決算(千円)	31,532	30,927	36,123	44,359	42,101	43,787	104.0	
		1人当たり(円)	14,909	14,999	17,909	23,020	22,684	24,165	106.5	
	修繕料	決算(千円)	10,751	12,062	9,253	14,637	8,596	11,418	132.8	
		1人当たり(円)	5,083	5,850	4,588	7,596	4,631	6,301	136.1	
	プール維持 管理費	決算(千円)	6,093	64	1,437	4,879	4,689	4,831	103.0	
		1人当たり(円)	2,881	31	712	2,532	2,526	2,666	105.5	
	校務員業務 委託料	決算(千円)	2,725	2,750	2,750	2,543	2,543	2,578	101.4	
		1人当たり(円)	1,288	1,334	1,363	1,320	1,370	1,423	103.9	
	図書購入費	決算(千円)	5,577	5,637	5,967	4,048	4,072	4,138	101.6	
		1人当たり(円)	2,637	2,734	2,958	2,101	2,194	2,284	104.1	
	教材備品 購入費	決算(千円)	14,987	22,158	9,345	8,358	15,940	14,892	93.4	校務用パソコン, 階段昇降機, 耐火キャビネット等
		1人当たり(円)	7,086	10,746	4,633	4,337	8,588	8,219	95.7	
ひろがる未来 応援事業	決算(千円)	1,697	1,627	1,344	978	1,487	1,703	114.5	豊かな心を育む総合 推進事業(R4まで)	
	1人当たり(円)	802	789	666	508	801	940	117.4		
施設維持 改良工事費	決算(千円)	12,531	12,860	8,780	13,595	12,999	16,275	125.2		
	1人当たり(円)	5,925	6,237	4,353	7,055	7,004	8,982	128.2		
GIGA 賃借料	決算(千円)	23,892	31,856	31,856	31,856	31,856	31,856	100.0	リース料	
	1人当たり(円)	—	—	15,794	16,531	17,164	17,581	102.4		
GIGA 備品購入費	決算(千円)	—	62,877	21,480	0	0	0	0.0		
	1人当たり(円)	—	—	—	0	0	0	0.0		
GIGA 委託料	決算(千円)	—	105,820	0	0	0	0	0.0		
	1人当たり(円)	—	—	—	0	0	0	0.0		
学校建設費	決算(千円)	192,885	12,612	73,260	2,503	0	24,849	—	防犯カメラ等設置工事	
	1人当たり(円)	91,199	6,116	36,321	1,299	0	13,714	—		
小学校費	合計(千円)	552,323	587,407	463,086	375,413	380,378	444,478	116.9		
	1人当たり(円)	261,146	284,872	229,591	194,817	204,945	245,297	119.7		

児童数(人)	2,115	2,062	2,017	1,927	1,856	1,812	97.6
6年生(人)	377	349	373	345	329	337	102.4

※ 児童数は5/1現在の人数。

◎ 中学校生徒に係る経費の調べ

科目		R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額	対前年比率	備考	
主な経費	生徒報償費	決算(千円)	234	236	216	305	271	297	109.6	卒業記念
		1人当たり(円)	701	711	732	933	894	905	101.2	
	消耗品費	決算(千円)	15,313	13,268	22,453	14,407	18,525	13,480	72.8	
		1人当たり(円)	15,934	13,952	24,485	15,149	19,898	14,652	73.6	
	燃料費	決算(千円)	555	475	415	354	382	409	107.1	
		1人当たり(円)	578	499	453	372	410	445	108.5	
	光熱水費	決算(千円)	19,404	16,192	19,124	21,332	20,989	21,517	102.5	
		1人当たり(円)	20,191	17,026	20,855	22,431	22,545	23,388	103.7	
	修繕料	決算(千円)	5,490	5,279	5,351	5,260	4,091	4,784	116.9	
		1人当たり(円)	5,713	5,551	5,835	5,531	4,394	5,200	118.3	
	プール維持 管理費	決算(千円)	1,132	0	317	1,070	1,069	1,255	117.4	
		1人当たり(円)	1,178	0	346	1,125	1,148	1,364	118.8	
	校務員業務 委託料	決算(千円)	1,615	1,630	1,630	1,506	1,506	1,526	101.3	
		1人当たり(円)	1,681	1,714	1,778	1,584	1,618	1,659	102.5	
	図書購入費	決算(千円)	3,287	3,149	2,981	2,592	2,521	2,490	98.8	
		1人当たり(円)	3,420	3,311	3,251	2,726	2,708	2,707	100.0	
	教材備品 購入費	決算(千円)	9,813	10,215	4,922	5,131	8,732	7,317	83.8	校務用パソコン、牛乳保冷庫、印刷機等
		1人当たり(円)	10,211	10,741	5,368	5,395	9,379	7,953	84.8	
ひろがる未来 応援事業	決算(千円)	850	795	647	452	892	1,261	141.4	豊かな心を育む総合推進事業(R4まで)	
	1人当たり(円)	884	836	706	475	958	1,371	143.1		
施設維持 改良工事費	決算(千円)	15,641	8,190	5,399	5,399	6,247	6,399	102.4		
	1人当たり(円)	16,276	8,612	5,888	5,677	6,710	6,955	103.7		
GIGA 賃借料	決算(千円)	9,631	12,842	12,842	12,842	12,842	12,842	100.0	リース料	
	1人当たり(円)	—	—	14,004	13,504	13,794	13,959	101.2		
GIGA 備品購入費	決算(千円)	—	29,172	0	0	0	0	0.0		
	1人当たり(円)	—	—	—	0	0	0	0.0		
GIGA 委託料	決算(千円)	—	43,560	0	0	0	0	0.0		
	1人当たり(円)	—	—	—	0	0	0	0.0		
学校建設費	決算(千円)	0	6,952	16,044	131,072	0	18,579	—	防犯カメラ等設置工事、笠岡東中学校倉庫・自転車置場設置工事	
	1人当たり(円)	0	7,310	17,496	137,825	0	20,195	—		
中学校費	合計(千円)	259,657	328,881	271,417	271,417	255,761	295,737	115.6		
	1人当たり(円)	270,195	345,826	295,984	285,402	274,716	321,453	117.0		

生徒数(人)	961	951	917	951	931	920	98.8
3年生(人)	334	332	295	327	303	328	108.3

※ 生徒数は5/1現在の人数。

◎ 幼稚園児童に係る経費の調べ

幼稚園配当予算

科 目		R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額	対前年比率	説 明	
報償費	決算(千円)	0	0	0	0	0	0	—		
旅費	決算(千円)	225	132	128	90	70	0	0.0		
需用費	消耗品費	決算(千円)	1,968	1,730	1,436	744	692	100	14	教師用含む
		1人当たり(円)	12,615	15,446	15,277	20,667	3,359	1,266	37.7	
	燃料費	決算(千円)	141	137	95	35	36	0	0.0	
	食糧費	決算(千円)	10	10	7	3	3	0	0.0	
	印刷製本費	決算(千円)	50	33	24	0	0	0	—	
		1人当たり(円)	321	295	255	0	0	0	—	
	修繕料	決算(千円)	42	61	50	3	13	19	146.2	
小計	決算(千円)	2,211	1,971	1,612	785	744	119	16.0		
役務費	通信運搬費	決算(千円)	21	13	15	5	1	1	100.0	
		1人当たり(円)	135	116	160	139	29	1,000	3,448.3	
	手数料	決算(千円)	147	120	98	60	58	11	19.0	
小計	決算(千円)	168	133	113	65	59	12	20.3		
備品購入費 (図書購入費)	決算(千円)	1,060	456	209	98	112	12	10.7		
ひろがる未 来応援事業	決算(千円)	199	200	115	28	70	26	37.1	豊かな心を育む総 合推進事業(R4ま で)	
	1人当たり(円)	1,276	1,786	1,223	778	2,000	26,000	1,300.0		
計	予算(千円)	3,863	2,892	2,177	1,066	1,055	169	16.0		
園児数(人)		156	112	94	36	35	1	2.9		

こども育成課関係

通信運搬費	決算(千円)	587	526	404	306	206	79	38.4	
光熱水費	決算(千円)	4,676	4,399	5,385	4,244	3,982	2,002	50.3	
校務員業務 委託料	決算(千円)	1,110	1,120	996	452	554	317	57.2	
修繕料	決算(千円)	1,704	438	292	209	261	120	46.0	
施設維持改 良工事費	決算(千円)	6,803	1,296	1,210	0	968	0	—	
図書購入費	決算(千円)	0	0	0	0	0	0	—	幼稚園配当へ
備品購入費	決算(千円)	2,525	3,057	1,013	66	267	0	0.0	コロナ対策補助金 含む
園建設費	決算(千円)	0	0	0	0	0	0	—	空調設備実施設 計・工事費
計	決算(千円)	17,405	10,836	9,300	5,277	6,238	2,518	40.4	

※ 園児数は5/1現在の人数。

令和6年度の主な事業

教育費：2,364,998千円

(単位：千円)

事務・事業名	決算額	備 考
スクールボート運営管理事業	17,549	高島、白石島、北木島、飛島の児童・生徒の通学
一貫教育推進事業	7,877	説明会の実施 小中一貫教育カリキュラム運用 (国・算(数)・社・理・英・音・体・家・美) 小中一貫教育推進だよりの発行(4回) 笠岡市の小中一貫教育リーフレット増刷 小中一貫教育研修会の開催 講師：木原俊行先生(四天王寺大学 教授)
学校運営協議会事業	993	中学校ブロックでの学校運営協議会の開催により保護者及び地域住民等の学校運営への参画や支援の促進を図った。
こども教育振興基金積立金	10,564	令和6年度に受領した寄附金と令和5年度積立の残額を「笠岡市こども教育振興基金」に積み立てた。
教育活動支援事業	56,681	小・中学校、幼稚園へ非常勤支援員42名を配置
いじめ・不登校対策総合推進事業	17,474	不登校対策支援事業(6名配置) 巡回カウンセラー等配置事業(4名配置)教育相談室 非常勤支援員(1名配置)教育相談室 小1グッドスタート支援事業 2名 特別支援教育指導員1名(学校教育課に配置)
ひろがる未来応援事業	2,990	中学校ブロック・幼・小・中学校(園)からの提案による交流活動、地域探求活動、体験活動等の小中一貫教育や連携教育に関する活動、学校が主体的に取り組む教育活動を行った。
中学生学力向上に向けた検定チャレンジ	782	漢検・英検・数検の受検料を各1回補助することで、自主的・積極的に学習に取り組む力を身につけ、学習意欲の向上を図る
小中一貫校整備検討委員会	121	金浦中学校ブロック小中一貫教育校整備のための検討委員会を開催した。第1回では、金浦での一体型小中一貫教育校の整備を見直すことを説明した上で、今までの会議での要望事項の取り纏め等を行った。第2回では 学校規模適正化計画の改訂版(案)について説明し、令和7年度に小中一貫教育推進計画を見直す予定であることを説明した。
図書整備事業	6,641	小学校(4,139)、中学校(2,490)、幼稚園(12)
教員業務アシスタント配置事業	38,758	教員が抱える事務作業等の負担を軽減するため配置(13名) 笠岡小、中央小、金浦小、大井小、大島小、笠岡東中、笠岡西中、金浦中 (兼務)城見小、陶山小、吉田小、新山小、神内小、神島外小、北川小、大島中、新吉中、小北中
スクールバス運行事業	24,727	笠岡小、大島小、吉田小及び北木小の児童の通学
学校施設営繕事業	37,932	吉田小外壁調査・補修工事、神内小職員女子トイレ洋式化工事、新吉中保健室空調機取替工事、金浦中屋内運動場外壁防水改修工事 ほか
階段昇降機購入事業	1,670	車いすを利用している児童の移動手段として、階段昇降機を購入した。
教材備品整備事業	11,229	小学校(7,559)、中学校(3,670)
防犯カメラ等設置事業	34,177	市内小学校12校・中学校5校に防犯カメラ等を設置した。 設置校：笠岡小、中央小、金浦小、城見小、大井小、吉田小、新山小、神内小、大島小、神島外小、北木小、北川小、笠岡西中、金浦中、新吉中、大島中、神島外中 設置内容：防犯カメラ44台、赤外線センサー17台、モニター13台、レコーダー17台
笠岡東中学校自転車置場・倉庫整備事業	8,547	自転車通学の範囲拡大に伴い、自転車置場を増設した。また、運動場のコンテナ撤去に伴い、屋外で使用する物品を収納するための倉庫を整備した。
金浦中学校手摺設置事業	704	学校内での移動に手摺が必要な生徒が、安全に学校生活を送れるよう環境整備を図った。
小学校における不登校対策実践	5,202	児童に対する登校支援や保護者等への相談支援
理科観察実験アシスタント配置事業	3,852	笠岡小・中央小・金浦小・城見小・大井小・吉田小・北川小・大島小・神内小に理科支援員3名を配置
主体的な学びの基盤づくり事業	1,086	小・中学校に、その日の授業に関連した補充学習等を非常勤講師や教員OB、地域の識者等を指導者とし、各学校の実態に応じて週1回、各1時間程度実施
リーディングDX事業	781	児童生徒の情報活用能力の向上を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や校務DXを行った。
かさおか夏チャレンジ事業	289	夏季休業中の小中学生の家庭学習を支援した。
学校ICT環境整備事業	1,448	整備された学習者用端末を自宅学習にも活用するため、フィルタリングの設定を行った。
外国語指導助手配置事業	47,099	生きた英語を親しみやすく児童生徒に伝えるため外国語指導助手(ALT)を小・中学校に9名配置

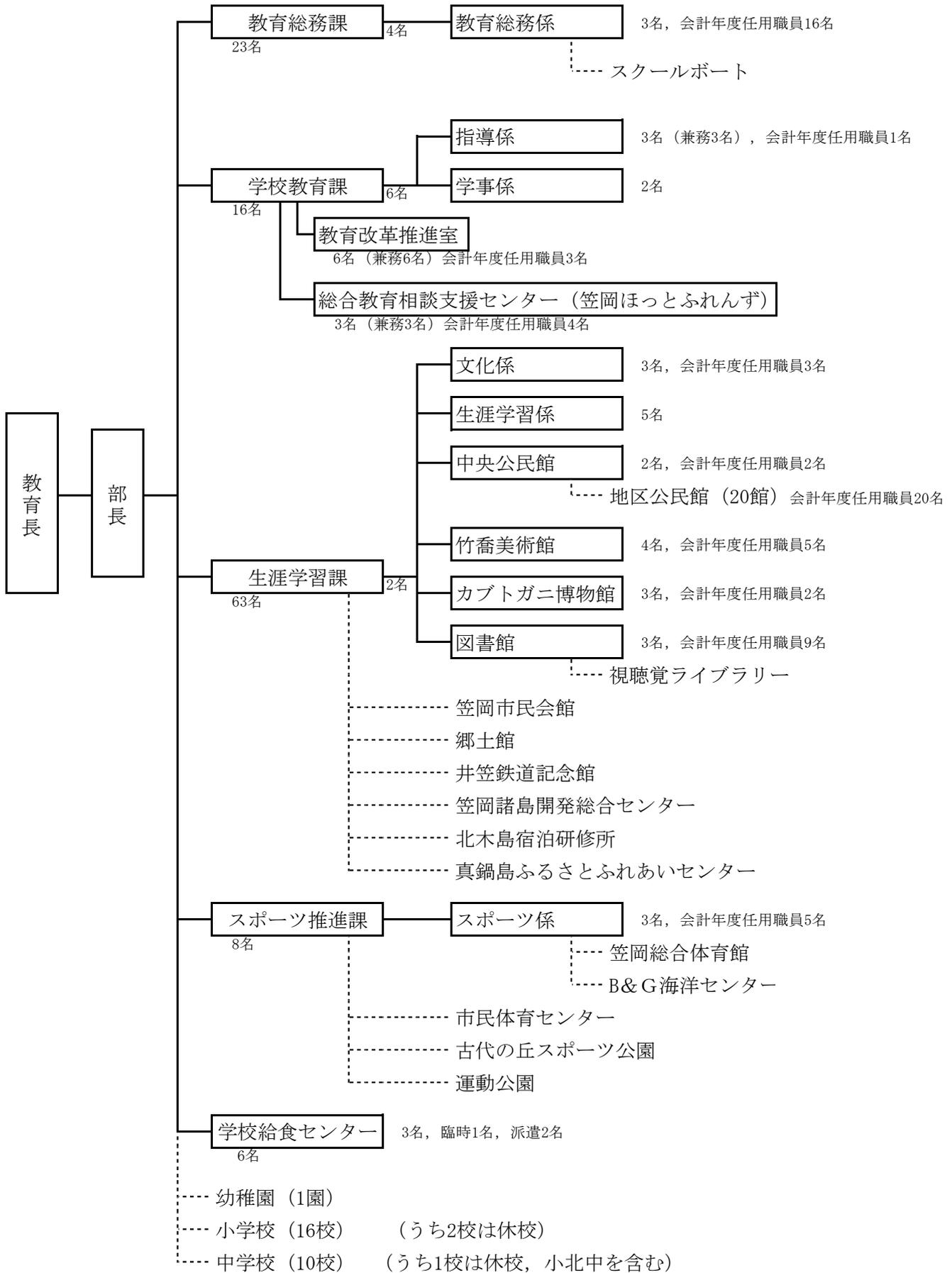
事務・事業名	決算額	備 考
I C T 支援員配置事業	39,930	小・中学校等に学校 I C T 支援員 8 名を配置し、月 4 回程度技術支援・校務支援・授業支援等の様々なサポートを実施
JAF心のプロジェクト「夢の教室」	1,696	「夢先生」を迎え、実体験に基づく話やゲームを通して、フェアプレー精神や協力することの大切さ、夢を持つことの素晴らしさなどを学ぶ。
A I 教材整備事業	5,752	整備された学習者用端末を効果的に活用できる A I 教材を導入した。併せて小・中学校各 2 校において学力調査を実施し有効的な活用と効果について検証した。
小・中学校指導者用デジタル教科書整備事業	5,581	全小学校において、令和 2 年度改訂の国語、算数、理科、社会、外国語の教科書に準拠した指導者用デジタル教科書を整備 全中学校において、令和 3 年度改訂の国語、数学、理科、社会、英語の教科書に準拠した指導者用デジタル教科書を整備
校務支援システム活用事業	12,751	児童生徒の出欠席、成績処理等が全小・中学校で運用となり、情報の共有化および校務の簡素化が図られた
新学習指導要領に対応した I C T 環境整備事業	44,697	市内小・中学校において、新学習指導要領に対応した授業を実施するため、学習者用パソコン（3クラスあたりに40台セット）と授業支援システム、無線LAN環境を整備
小中一貫教育の推進に向けた推進員配置事業	19,355	英語・国語・理科・保健体育の教員免許を持つ非常勤講師を7名配置し、乗り入れ授業を行った。
部活動指導員配置事業	3,096	教員の勤務負担軽減と部活動の活性化を図るため、市内 4 中学校へ 9 名の部活動指導員を配置した。（笠岡東中：バレー部、柔道部 笠岡西中：美術部、技術部、卓球部 新吉中：吹奏楽部、ソフトテニス部 大島中：卓球部、ソフトテニス部）
人権教育自立促進事業	281	教育上配慮を必要とする児童・生徒の自立を支援
教育相談事業	18,651	児童生徒及びその保護者等に対して相談、助言及び援助を実施 教育相談員 4 名
特別支援教育就学奨励事業	3,762	小学校学用品等627、中学校学用品等707、給食費2,428
要保護及び準要保護児童生徒援助費補助事業	45,586	小学校学用品等8,131、中学校学用品等11,626、給食費25,829
離島留学応援事業	6,248	市内の相談室へ入室している児童生徒を対象に、飛島相談室を開設した。また、神島外中学校に「離島留学」の子どもが通うことができる体制を整えた。
旧今井小学校校活用事業	5,931	総合教育相談支援センターの本室を旧今井小学校の 2 階部分に移設する準備を行った。
施設型給付費	169,213	子ども・子育て支援新制度へ移行した私立幼稚園等へ施設型給付費を支給した。
幼稚園一時預かり保育事業	2,985	北木西幼で、一時的に教育時間外に保育を実施した。
生涯学習事業	1,572	生涯学習フェスティバル、諸学級事業 たくましい笠岡っ子（年2回）参加者数34人 スピーチコンテスト、「明るい家庭づくり」作文
奨学金給与事業	1,346	公益財団法人坂本音一育英会（被交付者 高校生7人、大学生0人） 藤井育英会（被交付者 高校生9人）
成人式	801	開催日 令和7年1月12日（日） 参加者数307人 市内参加率 64.0%
放課後子ども教室	558	市内4箇所において、地域住民の参画により子どもたちが放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験活動等を行った
土曜日教育支援	468	市内9箇所において、地域住民の参画により子どもたちが土曜日等を安全・安心に過ごし、多様な体験活動等を行った
地域学校協働本部事業	2,385	市内14地区（6中学校区、14小学校区）において、地域住民の参画により学校教育の支援活動を行った
文化振興事業	840	さつき・新緑展、名月観賞の夕べ、菊花展、文化祭、芸能祭、美術展、児童・生徒美術展（延べ来場者数 6,666人）
文化賞揚事業	156	全国・中国大会等に出場する選手に賞揚金を贈呈し、選手を激励する。 （公益財団法人笠岡市文化・スポーツ振興財団共催事業）
木山捷平文学選奨	2,273	第20回木山捷平文学選奨 短編小説（全国公募）、随筆・詩・短歌・俳句・川柳
白石踊後継者育成事業	1,455	白石踊後継者育成事業の委託（委託先 白石踊会） 定期練習会10回、出前講座2回、鑑賞体験ツアー1回、出演9回
井笠鉄道記念館管理事業	1,136	井笠鉄道記念館管理・運営 年間入館者数2,973人 管理業務の委託、機械警備、冊子印刷等
文化財保護事業補助金	634	市指定文化財への補助金支出 清水氏庭園石垣修理事業（国登録記念物） 諏訪神社のクスノキ保存剪定事業（市指定天然記念物） 神護寺本堂防災設備整備事業（県指定重要文化財）
北木島宿泊研修事業	5,691	北木島宿泊研修所の管理運営を指定管理によって運営し、島ならではの宿泊体験学習を提供。 延べ利用者数1,266人（市内742人、市外524人）

事務・事業名	決算額	備 考
笠岡子どもフェスティバル	1,000	各種団体やサークルなどによる遊び、体験ブース、見学コーナー 学生や市民などがボランティアとして参加。 開催日 令和6年4月29日 来場者数 約2,600人
青少年育成地区活動推進事業	864	各地区において青少年健全育成に取り組む団体に対し補助金を交付し、活動を支援 (市内各地区青少協11団体)
公民館運営事業	112,529	最も身近な生涯学習の拠点として、場所と機会の提供を行った。 各種講座の開催 ・講座数 中央公民館 45講座 地区公民館 299講座 ・受講者数 中央公民館 延べ 9,240人 地区公民館 延べ 61,868人
公民館活動助成事業	5,953	地区公民館20館 105事業
公民館施設整備事業	2,776	玄関廊下改修工事(北川) 調理実習室床張替工事(北木西) カーテン新設工事(六島)
市民会館運営事業	45,535	一般財団法人笠岡市総合福祉事業団吸江社へ管理運営及び市民会館を利用した自主講座や文化芸術鑑賞に係る事業を委託 【施設整備関係】 ・市民会館機械室用途変更に伴う窓ガラス等改修工事 ・市民会館漏水修繕工事 ・市民会館受電設備内舞台照明用変圧器取替工事(R7への繰越)
図書館運営事業	98,408	来館者数83,060人 貸出冊数241,787冊 蔵書数195,200冊(一般書132,829冊,児童書62,371冊) カウンター業務,ブックスタート事業,巡回文庫業務等の実施 「笠岡子ども司書」養成講座 講座4回,参加人数6名 紙芝居とおはなしの会 18回,延べ参加人数186人 あかちゃんといっしょのおはなしかい 9回,延べ参加人数96人 子ども映画会 12回,延べ参加人数207人 本のリサイクル会(1回)参加人数157人,6団体 配布数2,311冊 講演会「備中兵乱記を読む」参加人数48人 その他の行事 27回 参加人数636人
こども図書館15周年記念事業	112	「こども図書館開館15周年記念としゃかんまつり」を開催 延べ参加人数387人
こども図書館施設長寿命化事業	12,518	防水改修工事,外壁改修工事,塗装工事,樋工事
カプトガニ博物館運営事業	73,612	カプトガニ保護対策事業,大量飼育事業,特別展示,特別陳列 施設改修工事 入館者数61,131人 特別展示「真・鱈」展 特別陳列「八百万のカプトガニ」展 飼育池水路浚渫工事,ろ過槽ろ過材入替工事など
郷土館運営事業	596	年間入館者数519人 企画展「木山捷平の詩あれこれ」
竹喬美術館運営事業	24,455	竹喬美術館展覧会事業 来館者数16,741人 テーマ展「国画創作協会の画家たち」 特別展「芸術の都(パリ)に集った巨匠たちー20世紀フランス絵画 服部コレクションー」 テーマ展「没後20年 金谷朱尾子」 特別展「日本画家 入江西一郎のどうぶつ画」 テーマ展「竹喬美術館ゆかりの画家たち 第一期」
真鍋島ふるさとふれあいセンター運営事業	1,489	交流学習・文化活動等を行う場を提供
笠岡諸島開発総合センター運営事業	2,801	交流学習・文化活動等を行う場を提供
スポーツライフ推進事業	2,373	スポーツ教室,ニュースポーツ大会,スポーツ推進委員派遣等
スポーツ振興事業	7,074	カプトガニ駅伝大会,べいふあーむ笠岡マラソン大会開催等
スポーツ賞揚事業	2,848	世界・全国大会等に出場する選手を激励し賞揚金を贈呈する
体育施設管理事業	13,047	体育施設管理運営委託料(5,384) 施設予約管理システム運用委託料(1,253) 体育施設管理一般事務経費(490) スポーツ施設LED照明機器借上料(5,920)
体育施設改修事業	619	笠岡運動公園2.5mプール修繕
海洋センター管理運営事業	12,219	島しょ部のスポーツ施設の管理運営

事務・事業名	決算額	備 考
総合スポーツ公園体育施設 管理運営事業	56,161	笠岡総合体育館，笠岡陸上競技場，多目的広場の管理運営
学校給食事業	344,318	小学校14校，中学校8校（小北中含む），幼稚園1園

3 事務局・教育機関の機構及び職員数

令和6年4月1日現在



※幼稚園に係る業務は就学前教育の一元化により、こども・健康福祉部こども育成課が所管しています。